

TOKYO URBAN TECH

工学院大学

# 校友会報



工学院大学

KOGAKUIN UNIVERSITY

2012 vol.133

# 125周年記念事業募金のお願い

校友会の皆様には平素125周年記念事業募金にご支援頂き、厚くお礼申し上げます。  
平成24年は125周年Year、本学園は10月31日に125周年を迎えます。  
記念総合教育棟の建設はじめ125周年記念事業は順調に進んでおりますが、記念事業完遂のためには、もう一段の募金積み上げが必要とされております。

幸い昨年の税制改正で募金への優遇巾が大幅拡大され、募金金額の40%弱が所得税の減額を受けられるようになりました。またATM、インターネットバンキングからも募金払込が出来るようにいたしました。さらに一定額以上の募金をいただいた方の銘板作成も開始いたしました。次の創立150周年の銘板作成は25年後ですので、是非ともこの機会に銘板にお名前をお残し頂きたいと存じます。詳細は同封の募金趣意書をご覧ください。募金の期限は平成25年3月31日となっておりますので、校友会の皆様のごさらなる強力なご支援をお願い申し上げます。

学園創立125周年記念事業

## 募金趣意書

学園は、本年10月31日  
創立125周年を迎えます。

1887(明治20)年創立



Engineer our Future  
2012

工学院大学 | 工学院大学附属高等学校 | 工学院大学附属中学校

学校法人 工学院大学

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2  
TEL.03(3342)1211(代表) <http://www.kogakuin.ac.jp/>

● 寄付金額の40%弱の  
所得税を軽減

● ATM、インターネット  
バンキングからも  
募金払込が可

● 銘板にお名前が残ります



2012年1月8日「新春の集い2012」  
新宿キャンパスアトリウム (385名出席)

# Contents

## 校友会情報

工学院大学校友会 卒業生バックアップセンター	2
校友会 会長 挨拶 長嶋 秀世	8
全国支部長会報告	10
新春の集い2012	11

## 学園情報

理事長 挨拶 高田 貢	12
学 長 挨拶 水野 明哲	13
校 長 挨拶 宮下 正昭	14
学園および各同窓会の情報誌紹介	15

学園 Topics	16
-----------	----

## 学校法人工学院大学創立125周年 特別企画

校祖 渡邊洪基 茅原 健	22
渡邊洪基先生にまつわるノート 大橋 秀雄	24
渡邊洪基の「老いらくの恋」「吉見百穴の発掘調査支援」 「書」 高橋 政雄	26

## 同窓会情報

我が国宇宙開発の一翼を担う 石田 昭徳	28
「電気、水道、ガス、ダイシン」 西山 敷	30
子どもの「ものづくり」～諏訪市の取り組み～ 山田 勝文	32
14th ISVT 参加記 高橋 謙介	34

カンボジアでのボランティア活動 正木 信敬	36
台所の移り変わりとともに建築士の道へ 西澤 千尋	38

## 大学・校友会の事務局情報

校友会第17回全国大会 埼玉大会・居住地別人数	40
募金ニュース〈校友会の皆様へ〉 校友会募金委員会	41
工学院大学 校友子女特別選抜入学試験を実施します!	42
工学院大学 校友教諭在職高校特別推薦入試を実施します!	43
教員をなさっている卒業生・修了生の皆様、情報をお寄せください。	43
各部会の平成23年度活動報告	44

## 校友会事務局からのお知らせ

校友会事務局からのお知らせ・お願い、受賞、訃報	46
「第67回評議員会・第56回総会」開催のお知らせ	47
学生・生徒の表彰報告	47
平成23年度事業報告、平成24年度事業計画(案)	48
平成23年度収支計算書、平成24年度収支予算書(案)	49
平成24年度 支部総会開催予定表	50
本部役員・支部長メールアカウント一覧	50
平成23年度貸借対照表・財産目録	50
一般社団法人移行に関するお知らせ	51

## 企画・広報部からのお知らせ

広告案内、表紙デザインの説明、編集後記	54
---------------------	----

同級生や後輩・先輩が  
**続々登録**  
しています!

# 卒業しても

工学院卒業生だけが利用できる

工学院卒業生専用! 高機能コミュニティWebサイト!

工学院大学校友会

# 卒業生 バックアップ センター



※「工学院卒業生」とは、学校法人工学院大学が設置した学校を卒業した全ての卒業生を指します。

## 皆で登録すれば、より「便利」に「楽しく」コミュニケーションできる!

同級生かんたん検索機能や、  
同学年だけでなく、違う学年の卒業生とも  
気軽に交流できるコミュニティ機能が充実!  
連絡先が分からなくても連絡できます。  
同級生や先輩、サークル仲間など、  
工学院学友との交流の場として  
ぜひご利用ください。

ここがスゴイ!  
**1**

**卒業生名簿とリンクして便利!**  
大学に登録されている自分のデータの確認や更新  
が自宅で簡単にできます。

ここがスゴイ!  
**2**

**メールアドレスを公開する必要なし!**  
個人情報の不要な公開は必要ありません!  
卒コム上でメッセージのやり取りが簡単にできます。

### どんなことができるの?

住所変更が  
WEB上から  
簡単に!

母校からの便りが  
年に1回届きます。



同級生を  
1Clickで  
確認!

「同級生かんたん検索」  
で同級生一覧を確認!



充実の  
検索機能!

卒業生名簿に基づ  
いて、卒業年や学科・  
ゼミ・クラブなどから  
先輩・後輩の検索が  
できる!



便利な  
コミュニティ  
機能!

同窓会の呼びかけや  
連絡、趣味の仲間を  
募るなど様々な活用  
できる!



# 登録受付中! いますぐアクセス!

工学院大学校友会 卒業生バックアップセンター

Google 検索

**登録・利用全て無料!**

<http://www.sotsugyousei.com/kogakuin/>

# ずっと一緒。

## コミュニケーションサポートサイト!



### 登録方法のご案内

新規登録の手順のご説明です。  
ご登録はパソコンでアクセスした  
WEBサイトで行ってください。  
(携帯からのアクセスはできません)

登録・利用  
全て無料!

123  
ステップで  
簡単登録!

#### ステップ①

「卒業生バックアップセンター」の  
トップページにアクセス。

サイトが開いたら、画面右の「新規会員登録」  
をクリックしてください。



#### まずはサイトにアクセス!

▶ 検索サイトで検索

▶ ブラウザにURLを入力 <http://www.sotsugyousei.com/kogakuin/>



#### ステップ②

#### 本人確認

項目名によって、情報を入力してください。  
※項目は全て必須項目です。

**「認証エラー」専用フォームから  
お問い合わせください。**

エラー画面の「お問い合わせ」をクリック。  
「認証エラーお問い合わせフォーム」が開きます  
ので、必要事項記入のうえ、送信してください。  
事務局にて登録データ確認をいたします。

認証エラー

ココをクリック!



**OB番号って?**  
校友会から送付して  
いる、会報の封筒宛  
名下に記載されている  
10桁の数字です。

161-0000  
東京都新宿区新宿0-0-0 新宿ハイム1101  
工学 健 操  
1234567890 000000

OB番号が分かる方

OB番号が不明な方

OB番号	1120001022		
氏名 (漢字)	(姓) 工学 健	(名) 太郎	
フリガナ	(姓) コウガクイン	(名) タロウ	
生誕・卒了年	2000年4月12日		
学校種別	国私立		
卒業学部	大学学部第1部		
卒業学科	機械工学科 機械工学コース		

氏名 (漢字)	(姓) 工学 健	(名) 学	
フリガナ	(姓) コウガクイン	(名) マナブ	
生誕・卒了年	2000年4月12日		
学校種別	国私立		
卒業学部	大学学部第1部		
卒業学科	機械工学科 機械工学コース		
生年月日	西暦	1980年	02月01日
所属研究室	内閣研究室		

認証が通ると仮登録画面になります。IDと  
して使用したいメールアドレスを入力して  
ください。登録したメールアドレスに本登録  
案内を自動的に通知いたします。



認証完了!!



Step3の  
本登録へ!!

#### ステップ③

#### 本登録

「Step2」で登録したメールアドレスに届いた、仮パスワードと登録ページのURLから登録してください。  
※パスワードは、大文字と小文字を区別していますのでご注意ください。



#### ① 仮ログイン

登録したメールアドレスと仮パスワード  
でログインし、利用規約に同意の上、  
お進みください。

基本情報入力・確認フォーム

下の画面で入力したデータが2012年04月02日現在のデータです。  
下向き矢印をよけての「確認画面へ移動」をクリックしてください。

メールアドレス

仮パスワードの再入力

パスワードの設定

秘密の質問

秘密の答え

#### ② 基本情報登録

基本情報の登録を行ってください。ここで、登録した  
情報はログイン後に変更できます。

基本情報入力・確認フォーム

入力内容で確認の上「登録する」をクリックしてください。

メールアドレス

仮パスワードの再入力

秘密の質問

秘密の答え

氏名(漢字)

フリガナ

ニックネーム

生年月日

性別

#### ③ 基本情報登録確認

基本情報の確認を行います。そのままよければ「登録」  
を、修正されたい場合は「戻る」をクリックしてください。



#### ④ 会員登録完了

会員登録完了しました! ログインすると  
サイトの全機能をお使いいただけます。

**これで登録完了です!! ログインして、サイトの機能を活用してください!**



当サイトへのご質問についてはこちらの連絡先まで、お問い合わせください。 <http://www.sotsugyousei.com/kogakuin/>

工学院大学校友会 卒業生バックアップセンター事務局 ☎ 03-5261-9890 ✉ kogakuin@optjapan.com

## 卒業生バックアップセンターに登録しよう！

同窓の絆の輪を広げて、  
懐かしい校友と語り合おう



## 自己データの確認と更新

住所変更届けをすれば、  
懐かしい母校からの便りが  
一年に一回届きます。  
このシステムを使えば  
大学に行かなくても、  
Web上で住所変更ができます。



## 卒業生の検索

学科、卒業年度を指定して、  
名簿が作れます。同級生の  
名簿ならワンタッチで。  
またサイトに関する説明の  
メニューもあります。



## 卒業生とのメールの発信と受信

登録したID(メールアドレス)は公表され  
ません。

「卒業生バックアップセンター」上でメー  
ルを受信したら、IDのアドレスに、メールの  
あったことが知らされます。「卒業生バック  
アップセンター」に繋がれば、そのメールを見  
ることができます。



## コミュニティ作り



同期の校友に呼び掛け  
や連絡、同じ趣味の  
仲間を募るなど

## 正しくデータを入力した筈なのに.....

そんな時は、律儀に何時までも悩まず  
に気楽に問い合わせましょう。

今はまだデータの不備も多々あり、また  
登録が少ないので、親切に教えて貰えます  
しかし、今のうちですよ！！

問い合わせ先：  
工学院大学校友会 卒業生バックアップセンター事務局  
03-5261-9890  
kogakuin@optjapan.com



## 会員登録の手順

- (1) 「工学院大学卒業生バックアップセンター」(以後、「卒業生バックアップセンター」と呼ぶ)を Google 等で検索し、表示する
- (2) 赤色の「会員登録」のボタンをクリック
- (3) OB 番号(校友会会員番号)が分かるかどうかで登録ボタンが2つに分かれる。
- (4) OB 番号不明の方は卒論時の研究室名が必要
- (5) 卒業年度、学科名などを入力して認証を受ける
- (6) 認証されると、ID の入力画面になる。
- (7) ID とは会員番号やハンドルネームのようなもの。しかし、ここではメールアドレスを ID として用いる。確認のために、同じアドレスを2回入力する
- (8) 入力して、「仮パスワード発行」ボタンをクリックし、一旦その画面を終了する。
- (9) 自分のメールを開き「卒業生バックアップセンター」から送られてきたサイトに、同時に送られた仮パスワードを用いて、接続する。
- (10) 最初の会長の挨拶のページで、「次へ」をクリック
- (11) 「利用規約に同意して会員登録」をクリック
- (12) 自分の基本情報を入力し、確認ページに移る。
- (13) 基本情報を確認し、「登録する」をクリック
- (14) 「確認する」ボタンをクリックすると、通常のログイン後の画面が現れる。
- (15) ログオフ後、再度のログインに際しては以下を用いる。  
ID：登録したメールアドレス  
Pass：後から入力したパスワード

HITACHI  
Inspire the Next

# クラウドで実現する スマートな社会

日立クラウドソリューション

ハーモニアス クラウド

## Harmonious Cloud

日立のクラウド 検索

株式会社 日立製作所 クラウド事業統括本部 お問い合わせは、[www.hitachi.co.jp/cloud/](http://www.hitachi.co.jp/cloud/)



くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ  
感じてください。



### 京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1  
TEL. (03) 3344-0111  
<http://www.keioplaza.co.jp/>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分  
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

# ゆとり有る豊かな

# 社会の実現への貢献

## 主な商品

- 電気部品材料(各種電気接点およびクラッド材料)
- 電子部品材料(金ボンディングワイヤー、封止材、各種ペースト)
  - 触媒(燃料電池、脱臭)
- 貴金属化合物(自動車排気ガス浄化触媒、めっき浴)
  - 各種めっき浴およびめっき装置
- 各種産業用白金製品(ガラス関係装置、理化学機器用製品)
  - 医療関係(制癌剤用白金族化合物、マーカー)
- 各貴金属リサイクル(使用済み製品より貴金属回収・精製)

## 身近な使用例

携帯電話の機能で、バイブレーターがあります。  
4ミリ位のモーターを使用しています。  
そこに使用されている小さなブラシはほとんど弊社のものです。

## 田中貴金属グループ



## 田中貴金属工業株式会社

〒100-6422 東京都千代田区丸の内2丁目7-3  
東京ビルディング22階  
TEL (03) 6311-5511(代表)  
■0120-266011  
URL : <http://www.tanaka.co.jp>

## 新たな技術で明日を拓く 靴の丸洗い

SHOES CLEANING  
本格オゾン溶水洗いから蘇る染色まで

年間 靴の丸洗い6万足の実績

汗とり・カビとり・脱臭・殺菌

大好評



革製の紳士靴・婦人靴  
スニーカーからスニーカーまで  
いろいろな『靴』が丸洗い可能です

ISO9001・14001 認証工場

## 東京ホールセール株式会社

<http://www.tokyo-ws.com>

本社 〒183-0056 東京都府中市寿町3-10-20  
TEL(042)362-5411(代)・FAX(042)361-9451  
府中工場  
平塚営業所 〒254-0016 神奈川県平塚市東八幡4-14-8  
TEL(0463)21-6337(代)・FAX(0463)25-1084



関連会社：甲信東京ホールセール株式会社 東海東京ホールセール株式会社 湘南東京ホールセール株式会社

## バッグのリメイク

ケアの悩み：



安心と感動へ

リメイク後 リメイク前

## クリーニング・特殊加工と保管

毛皮	パウダークリーニング/グレージング(起毛加工) 修理/リフォーム
皮革	皮革クリーニング/革のリ・カラー加工 撥水加工/修理/リフォーム 革帽子/革バッグ/革手袋/革靴/革ソファ等
和服	京洗い/撥水加工/ドレスクリーニング
インテリア	じゅうたん/ムートン/カーテン
一般衣料	ランドリー/布団/毛布/ぬいぐるみ
特殊加工	防炎(指定工場)/撥水/防虫/防カビ/抗菌/酸化チタン
保管	毛皮/皮革/一般衣料の有料保管/レインボーバック

# 株式会社 **デーマグ**

当社は 1990年創立で、  
『地球環境を大切に』をモットーとし、  
資源、エネルギーを守り、  
自然環境に貢献する  
磁気装置の専門会社です。

- ※商品紹介：1. 永久磁石式アルミニウム溶解炉攪拌機  
2. 選択帯電型静電選別装置  
3. その他 1). 廃棄物関係 12 種類  
2). 水関係 7 種類  
3). 大気関係など
- ※特許件数：59 件
- ※主な取引先：新日鐵、トヨタ自動車、東芝など
- ※海外支社：米国・中国・韓国
- ※海外工場：中国杭州(2005年に中国との合弁会社  
設立：資本1億・社長：高橋謙三)

**CAD設計技術者および開発技術者募集**

何なりとお気軽にご相談下さい。とにかくアクセスしてみてください。

所在地：〒277-0941 千葉県柏市高柳 1143-3 (東武野田線・高柳下車徒歩 3分)

[sales@zmag.co.jp](mailto:sales@zmag.co.jp)

代表取締役 高橋 謙三(本学機械工学科 1970年卒)

TEL: 04-7193-1620 FAX: 04-7193-1621

来校の節は是非お立ち寄り下さい。懇親会も出来ます。  
これからも宜しく願います。



新宿キャンパス7階の食堂  
(懇親会は8階ファカルティクラブでも開催可能)

新宿食堂部 TEL03-3348-0147



八王子キャンパス学生センター  
800席の広い食堂

八王子食堂部 TEL042-626-3782

## 工学院大学学園生活協同組合

本部TEL03-3346-3240 FAX03-3342-0980

e-mail: [seikyo@kucoop.or.jp](mailto:seikyo@kucoop.or.jp) <http://www.coop-bf.or.jp/kogakuin>



## 工学院大学校友会

### 会長挨拶

今年は、正月早々から大雪に見舞われ、東北、北陸地方の各地で落雪や豪雪のため被害が拡大しています。思えば昨年、東北地方太平洋沖地震、台風による風水害など自然が猛威を振るっています。これらの被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に1日も早い復興をお祈り申し上げます。それにしても、まあい火の玉の上にいる人間には厳しい環境ですが、そっとして欲しいですね。

卒業生の皆様には、お元気でご活躍していることを祈っています。ところで、上の2枚の写真は何処か分かりますか？ 気になる方は、最後までお読みください。

さて、昨年4月2日、学校法人工学院大学の理事長に当時の校友会会長高田貢氏が就任しました。高田氏は、工学院大学の電気工学科電子工学コースを昭和37年に卒業し、フォスター電機株式会社に入社、いくつかの海外勤務を経て平成6年に代表取締役社長に就任し、11年間社長を勤めてこられました。その後、2007年に校友会の副会長、2010年に会長に就任し、校友会と母校の発展に貢献しています。学校法人工学院大学の理事長に卒業生で、企業経営の経験者が就任するのは初めてのことです。学園に本格的な経営者が加わり、工学院大学は良い意味で急激に変化しつつあります。これから少子化が進む未来に備えて、高田理事長には学園をさらに強固なものにして下さるようお願いいたします。そのためには、校友

会はさらなるバックアップをする必要があります。

高田理事長は、校友会会長を4月中兼任していましたが、理事長職に専心するため月末に辞任しました。これを受けて、臨時理事会が4月に開催され、会長選挙の結果、私が推薦され、再び会長に就任することになりました。

校友会の今年の目標は、まず法人移行問題とこれに関連する組織改革、次に各種行事の参加者の増大、さらに支部の活性化です。最初の問題については、公益法人制度改革関連3法案が2008年12月に施行され、工学院大学校友会は現在の時点で特例民法法人となっており、2013年11月までに一般社団法人の認定申請を行う必要があります。もし、認定が不許可となった場合は、移行期間の終了日をもって自動的に解散となり、いま所持している財産は没収となります。内閣官房行政改革推進室によれば、公益認定を受けない一般社団法人へ移行する団体は、「移行認可申請の際に合議制機関に今所持している財産の使い方について公益目的支出計画を提出し、移行後はこれについて監督を受けることになる」とあります。このため、執行部では移行委員会、常任理事会、理事会を20数回開催して、定款をはじめとして、19個の規則を制定するための準備をしています。その中で、法律によって大きく変わるのは代議員制度であり、今年10月には選挙を行う必要が出てきます。



校友会会長  
長嶋 秀世

皆さん、次の式には見覚えがあるでしょう。

$$\nabla^2 \mathbf{E} - \mu \left( \varepsilon \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2} + \kappa \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} \right) + \nabla \left( \frac{\nabla \varepsilon_r \cdot \mathbf{E}}{\varepsilon_r} \right) = 0$$

そうです。懐かしい波動方程式です。この2階の偏微分方程式を解くには、初期条件と、境界条件が必要です。これらの条件によって解は全く異なるものになります。例えば、携帯電話から発する信号のようにまったく境界のない自由空間、四角な金属で囲まれた導波管あるいは光ファイバなどを伝わる電磁波は、この式から求められます。すなわち、境界条件が変わるだけで、直交直角座標、円筒座標、球座標などを用いて解くことになり、同じ式から全く異なる結果が出てきます。このようなことは、政治の世界では当たり前のようですが、私たちの周りにもあります。見解の相違などと言う人もいます。

さて、校友会の目的は、定款第4条にあるように学園支援と卒業生の親睦提携であります。前者は、毎年、校友子女特別選抜入試や校友教諭在職高校推薦入試を勧め、新宿祭、八王子祭、中高の夢工祭など各種の催しを支援し、定期総会では優秀な学生・生徒を表彰しています。学園の教職員、学生・生徒が華々しく活躍し、学園が発展することは卒業生にとってこの上ない喜びであり、名誉なことです。また、校友会では、毎年1月に新年会、5月に定期総会、3年に1度の全国大会を開催し

ています。さらに、各支部においては定期的に総会や各種催しを行い、地域の仲間の懇親を深め互いに交流を図っています。このように、卒業生の周りに多くの仲間が集い、親睦を深め、仕事や趣味に有益な情報交換を行う手段を提供することは校友会の本来の役割である。

式（目的）は同じであっても、境界条件（考え方）が異なれば、全く別物になる。定款第4条を深く考えれば、校友会の各行事は楽しくなければならぬし、多くの人が集まらなければ会の意味がない。その意味でも、今年の新春の集いは過去最大の385人が参加し、奥山姉妹の弾き語りも花を添えて賑やかで楽しい一日となりました。

また、校友会報やホームページは定款第4条を達成するための手段であると考えれば、読んで楽しい記事を読者に提供し、常に新しい情報を伝えなければその使命を果たすことはできない。

今回の会長挨拶は、会報130号のような型破りのようなものではなく、巻頭にふさわしいものにして欲しいという広報部の要望に従った。

最後になりましたが、卒業生には仕事で成功し、豊かな生活をして欲しいと願っております。社会的には、卒業生の活躍無くして学園の評価は上がりません。皆様のご活躍とご健勝をお祈りします。冒頭の写真左は、八王子校舎11号館前、右は同じく八王子校舎の3号館前です。どこかの公園のようでしょう。たまには、八王子校舎においで下さい。

平成 23 年度

# 全国支部長会報告



全国 39 支部の支部長と校友会役員



平成 23 年度も恒例の全国支部長会が開催されました。

- 1、開催日時：11 月 2 日（水）13 時～17 時
- 2、場 所：新宿校舎 20 階第 6 会議室
- 3、参加者数：支部長：42 名 オブザーバ：3 名
- 4、座 長：渡辺静雄氏（体育会連合 OB 会支部長）  
副 座 長：池田誠一氏（長野県支部長）  
書 記：森 薫氏（高知県支部長）
- 5、テ ー マ：「校友会の一般社団法人への移行と支部  
の位置付けについて」（前年度継続テーマ）

討議に先立ち、3 名の新支部長に長嶋会長より委嘱状が手交され、それぞれ抱負が述べられました。

13 時半頃より、座長の進行により討議に入りました。

最初に福田移行準備委員会委員長から、定款はじめ諸規則の内容および内閣府や全国公益法人協会との打合せ経緯などをまじえ、丁寧な説明がありました。

これを受けて、「校友会の発展は支部の活性化以外にない」との各支部長の思入れから、熱のこもった発言・提言が続きました。

特に今回の主な争点である次の事項①代議員制度導入について②支部会計制度について③組織上の支部の位置付けについて④役員の任期・定年制について⑤支部の活動について、などにつき質議が交わされました。



後日、これらの事項につき、委員長がまとめて、関係先や内部との調整を行った結果を、各支部長あて御報告することで閉会しました。

尚、次回座長は唐鎌貞郎氏（埼玉県西支部長）に決まりました。

その後、会場をファカリティクラブに移し、懇親会が実施されました。各地の支部長から、支部の近況報告や実状などについて披露があり、大いに盛り上がりました。

普段はあまり顔を合わせる機会のない、遠方の支部長や初参加の支部長も、古い知り合いのように、和気藹藹とした雰囲気の中で校友ならではの交流が図られました。

記）組織・事業部 副部長 谷 政美



# 『新春の集い 2012』開催される

昨春の東日本大震災の後、10ヵ月余が過ぎ、被災された方々におきましては何かと大変な事と案じております。そのような状況の中、我が工学院大学校友会として、被災地の方々と校友の絆を築くよう恒例の「新春の集い 2012」が1月8日（日）、11時30分より新宿キャンパス・アトリウムで組織・事業部 白井理事と称宣貴乃女史の華やかな司会進行により盛大に且つ滞りなく行われました。来年度の創立125周年記念事業成功に向けたキックオフとのことで参加者は385名と昨年より50名余の増加でした。ひとえに各同窓会のきめ細かな呼びかけの賜と感謝いたしております。

会は、組織・事業部 来住部長の開会宣言、グリーククラブOBによる「校歌」斉唱と参加者全員での「学園歌」斉唱で開始されました。始めに長嶋秀世校友会会長の挨拶で125周年を迎えるにあたり更なる記念事業への支援、協力のお願いと、今後の校友会の取り組み方など課題について述べられました。

来賓祝辞は、校友出身の法人・高田 貢理事長をほ



じめ、水野大学学長など学園関係者から頂戴して、祝賀会はスタートいたしました。

アトラクションにはシンガー・ソングライター、奥山みなこ女史のピアノ弾き語りライブを堪能しました。景品抽選会では校友会から高価な「ipad 2」や「工学院大学ブランドの日本酒」等々が校友会をはじめ、校友企業や各単体同窓会から提供して戴きました。各景品は3人に1人が当たりますが、参加校友は番号カードを手にしながら一喜一憂の楽しい一時を過ごしました。

今年度も前日からの床暖房、音響機器のセッティング、景品抽選のプログラム作成および実行、場内写真撮影と準備に協力頂きました、学園関係者や校友の皆様の本紙面を借りまして御礼を申し上げます。

尚、当日のスナップ写真につきましては、校友会事務局にアルバムを備え、校友会ホームページからも閲覧出来ますので是非、ご利用下さい。

組織・事業部理事 菊地 正





理事長

高田 貢

### 本年学園は創立 125 周年を迎えます。

光陰矢のごとし、昨年の校友会報で理事長就任のご挨拶をさせていただき、はや一年が経過いたしました。その間、多くの方々のご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、明治 20 年(1887)に本学園の前身である工手学校が創立されてから、本年 10 月 31 日でいよいよ栄えある 125 周年を迎えることになりました。本学園では歴史の節目を特別な創立記念日と位置付け、記念事業や式典が実施されております。このたび、本学園が創立 125 周年記念日を迎えるに当たり、2007 年 10 月に記念事業委員会が発足し、本格的な準備活動が開始されました。翌年 4 月には記念事業が策定され、その事業遂行のための記念事業募金活動がスタートしております。校友会の皆様、企業様、教職員ほかの各方面の多くの方々からご賛同いただきご寄付を賜っております。ご支援いただきました方々には厚くお礼申し上げるとともに、是非とも記念事業を成功させたく、引き続き校友会の皆様のご支援なにとぞよろしくお願い申し上げます。

次に、記念事業の進捗状況につきましては、教育環境整備事業の八王子総合教育棟の建設をはじめ学生・生徒の自主的事業、地域社会貢献事業、学園史の編纂事業および東日本大震災に係わる支援事業なども現在おかげさまで計画通り進められております。

また、来る創立 125 周年記念日のメモリアルイベントにつきましても、この時代にめぐり合わせた学園内外の関係者の多くの皆様方とともに思い出に残るお祝いができることを願い、現在鋭意計画中であります。その概要につきましては、前日の 10 月 30 日には八王子キャンパスにおいて「125 周年記念国際シンポジウム」を開催します。そして記念日当日の 31 日には京王プラザホテルにおいて「創立 125 周年記念式典および祝賀会」を開催いたしますが、同時に新宿キャンパスのアトリウムとエステック広場およびファカルティクラブなどにおいても「キャンパスフェスタ」を開催いたします。最終日の 11 月 1 日には海外提携 19 大学の学長にご出席をいただき「イノベーションサミット・学長の集い」(仮称)を開催する予定であります。

本学園は建学以来の歴史のなかで、1896 年の火災と 1923 年の関東大震災による校舎の焼失および 1945 年の戦災等の災厄を経験しその都度、先達の英知と献身的な努力により奇跡的な復興を遂げてまいりました。125 周年を迎えた現在、附属中学・高等学校、大学院 6 専攻、大学 4 学部 14 学科からなる学生・生徒数約 7,600 人が学ぶ学校法人工学院大学として発展してきております。21 世紀の日本は先例なき少子高齢化社会を迎え教育環境が大きく変貌し厳しい時代を迎えようとしております。本年の 125 周年を次世代への挑戦をはじめめる年と位置付け、我々も先達に習って多くの困難を克服し、教職員が一丸となって次世代 150 周年に向けて、つなぐ・ミッションのスタートを切ってまいり所存であります。

どうか引き続き校友会の皆様のご支援ご鞭撻をよろしく願い申し上げます。

### 工学院大学の使命 ——教育のこれから——

工学院大学は、学園として125年の伝統を持ち、大学も63年の歴史を持っています。そのような中で、いま大学のかじ取りを託された学長として何をなすべきか、日々考えています。3年前に学長に就任してまず最初に叫んだのは「ブランディング」です。本学は中身の割に、やや社会的評価が下がってきていると感じたからです。教育や研究の良いところをもっと社会にアピールすれば、評価は上がるに違いない、評価に値する内容を持っているはずだ、と考えたからです。そして、この点については皆様のご努力のおかげで着実に成果につながっていることを実感しています。新聞記事やテレビ報道の件数の増加、受験生数の着実な増大などをみても、ブランディングが一定の成果を上げつつあることはご承知の通りです。

では、このような社会的アピールだけで大学はますます発展するのか、というところではないと思っています。中身を良くすること、つまり教育と研究をどのように向上するかが課題です。とりわけ、高等教育機関であるといわれる大学では、いかにして優れた専門家を育てて社会に送り出すかを考えなければなりません。急速な技術の発展やグローバル化の一方で、少子化やゆとり教育による入学生の意識の変化など、時代の変化という言葉では言い表しきれない過激な環境の変化が我々を取り巻いています。まるで渦の中にいるようです。昨日、正しいと思っていた方向は、今日すでに間違った方向になっているかもしれません。そんな荒波の中で、何が大切か、本質を見据えて舵を切り続けなければなりません。教育という仕事は、人間対人間の関係の上に成り立っていることから、完全ということはありません。常により良いものを目指し続けなければならないと考えています。

幸いにして、工学院大学は立派な教員と職員を多数かかえています。有機的かつ機動的に動けるように組織を改編しつつ、教職員の能力やモチベーションの向上を図ることで、本学の教育の質を向上し、社会から高く評価してもらえるようなものにしていくことができると考えています。このことが、より質の高い受験生を集めることにもなり、より良い就職にもつながることで、大学の発展の動きが着実なものになってくると考えます。

そして、教育と研究を向上させる努力を通じて、教職員や校友、在学生など関係者が一体となって、学園、大学を発展させようという気持ちを持つことが、前進のための大きな原動力になります。創立125周年の記念すべき学園の節目が、このジャンプ台になることを願うとともに、校友の皆様のお力添えに期待するところ大であることを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



学長  
水野明哲

## 校長のご挨拶



校長  
宮下正昭

新学期を迎えましたが、校友会の皆様にはご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。日頃から本校の教育活動にご理解を賜り、温かいご支援とご協力をいただいておりますことを心より御礼申し上げます。

昨年は私達日本人にとって忘れることができない、また歴史上記憶に残る年となりました。3月11日の東日本大震災と世界を震撼させた福島原子力発電所の事故は我が国における最大級かつ最も深刻な自然災害であり、科学技術の発展を誇示し、便利で豊かな生活を追求して来た人類も自然の猛威に対して全く無力であること、また人間のおごりを思い知らされた1年でした。その一方で家族や仲間、友人など身近なかけがえのない人々との絆の大切さを実感させられた1年でもありました。日本人の団結と絆により、一日も早い復興を願って止みません。

さて皆様もご存じのように、本学園は今年125周年を迎えます。来る創立記念日（10月31日）とその前日に記念式典と記念事業が大々的に執り行われますが、皆様とご一緒に125周年を祝うとともに、本学園のさらなる発展と150周年を目指して決意を新たにしたいと思います。

工学院大学附属高等学校は今年で創立65周年を迎え、中学校は開校して17年目を迎えました。60年余りの間に高校は大きく様変わりしました。卒業後に就職する生徒はほとんどいなくなり、卒業生全員が大学や専門学校に進む進学校にかわりました。分野も理系のみならず、文系、医歯薬系、看護、保育など多様化しています。また国立大学、難関私立大学への合格者は年々増加していますが、その一方で工学院大学への進学者は年々減少しており、高大連携の強化と有効な手だてが急務の課題です。

本校は勉強のみならず部活動も盛んです。昨年の主な成果をあげますと、第9回東京新聞・新聞切り抜き作品コンクールにおいて高校2年の関雅貴君が高校最優秀賞（1名）、池田耀君が入選（5名）、村田幸樹君が努力賞（2名）を受賞しました。本校にとって大変名誉なことであり、誇りに思います。また柔道部は都大会団体戦で優勝、硬式野球部は夏の甲子園西東京大会ベスト16、男子バスケットボール部は都大会ベスト32、卓球部は東京都新人大会ベスト16と健闘しました。一方、吹奏楽部は第35回東京都高等学校アンサンブルコンテスト・打楽器六重奏で金賞、管楽六重奏で銀賞を受賞しました。部活動の面でも立派な成果をあげ、本校の名を高めてくれたことは嬉しい限りです。以上が中高の近況です。

校友会の皆様には附属中学・高等学校のさらなる発展のため、引き続きご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

# 校友会各同窓会誌、 学園広報誌の紹介

今回知っていそうで、意外と知られていない、自分のところ以外にもある、各同窓会会誌と学園広報誌のご案内をいたします。

なお新宿キャンパス B1 および 28 階校友会事務局には各同窓会会誌が置かれております。学園広報誌「窓」は新宿キャンパス B1、1 階、八王子キャンパスにて配置されておりますので、ご覧になってみてはいかがでしょうか。



機械系同窓会会誌



化学系同窓会会誌



電気電子情報同窓会会誌



建築学部同窓会会誌



附属高等学校同窓会会誌



専門学校同窓会会誌 (休刊中)



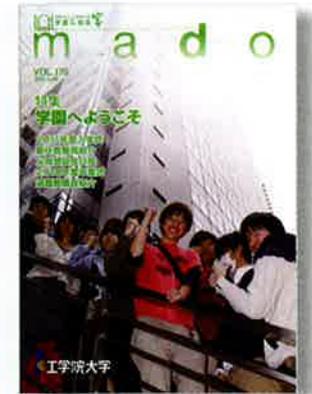
Vol.173 2011.11.20



Vol.172 2011.09.20



Vol.171 2011.07.20



Vol.170 2011.05.20



Vol.174 2012.01.20



## 『窓』 定期購読のおすすめ

学園のその時々のお出来事、情報を伝えております。

この学園広報誌「窓」は定期購読が出来ます。購読料は 2 年間で 1000 円 (送料込) です。お申し込みは総合企画室まで。



学校法人 工学院大学 総合企画室

〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2 TEL.03-3340-1498 (直) FAX.03-3340-1648

## 東北地方の美しい「村」再生プロジェクト —「また一緒に住める」喜びを— ついに入村式が実現！



11月23日、宮城県石巻市にて入村式が行われました。当日は、白浜地区入居予定者をはじめ、建築に携わる地元工務店、大学関係者など約50名が参加。多くの報道関係者も訪れ、高い注目を浴びました。式典では、入居予定の代表者と本学水野明哲学長、後藤治教授（建築デザイン学科）のあいさつ、鍵の引き

渡し、復興住宅の内覧会が行われ、入居予定の方に復興住宅の室内をご覧いただきました。初めて足を踏み入れる入居予定の住民の方々は「落ち着いて気持ちも安らげる」と安堵の表情を浮かべていました。従来の景観を大事にした「村」の再生、コミュニティーの復活が始まる第一歩となる入村式となりました。

### 恒久復興住宅プロジェクト（K-engine Project）

東日本大震災によって多くの被災者が住居を失った東北地方。本学では、建築学部の後藤教授の主導のもと、石巻市地元企業グループなどと連携して、恒久復興住宅プロジェクト（K-engine Project）と題して2011年4月から展開しています。

本プロジェクトでは、仮設住宅そのものを否定するものではなく、仮設住宅と常設復興住宅のバランスのよい供給こそが被災者の生活再建と地域復興に必要なだと考えています。被災地における応急的仮設住宅に替わる「恒久的復興住宅の建設」を主旨として発足しました。

## 有路友紀さんがフィンスイミング世界選手権に出場！

7月28日～8月7日にハンガリーで開催された『第16回フィンスイミング世界選手権大会』に、附属高校1年の有路友紀さんが日本代表選手として出場しました。

フィンスイミングとは、フィン(足ひれ)を装着して行う水泳競技のこと。有路さんがこの競技を始めたのは中学1年生の時でした。競泳クラブ主催のダイビング大会で1位を獲得、部活の先輩がやっていた、コーチが自宅近所に住んでいたという3つの偶然が重なったのがきっかけです。

有路さんは競技後のインタビューで、「新フォームで挑戦した世界選手権では800Mリレーで自己ベストを更新、ついに世界の決勝の舞台に立てました。世界トップレベルの泳ぎに刺激と感動を覚え、さらなる頂きと目標が見えました。次は日本一を目指します！」と熱意ある目標を語ってくれました。



## オーストラリア異文化体験研修報告 生徒たちは人間的に大きく成長しました



中学3年生が7月27日～8月16日の3週間、オーストラリアのアデレードで海外異文化体験研修を行いました。オーストラリアはちょうど冬の時期。我々の到着前はとても寒かったようですが、期間中は天候にも恵まれ、比較的穏やかな気候の中で研修を行うことができました。

本校の研修プログラムでは一人一家庭でホームステイを行い、バディと一緒に現地の学校に通います。英語の授業のほか、オーストラリアの料理やスポーツを体験したり、コアラを抱っこしたりとさまざまな体験を行いました。今年は4年ぶりにカンガルー島での1泊研修も行いました。フェリーに乗って若干船酔いに悩まされもしましたが、カンガルー島でしか見ることのできない動物や景色を楽しむことができました。ファミリーと初めて対面した時は、不安と緊張でいっぱい表情をしていた生徒たちも、後半の頃にはもうすっかりファミリーの一員。フェアウェルパーティでは「ソーラン節」や「I still call Australia home」の歌を披露し、サンキューレターを読んだ時は多くのファミリーが心から喜んでくれていました。別れの時にはあちこちで涙も見られ、生徒からはまだまだオーストラリア

にいたいという頼もしい声が多数聞かれました。

もちろん全員が毎日楽しいことばかりだったといったわけでもありません。ホームシックになったり、言葉が通じなかったり、食事が合わなかったりと、いろいろな壁に悩んだ生徒もいたようです。しかし、それらを何とか乗り越え、この研修を終えた生徒たちは、人間的に大きく成長したと確信しています。

また、今年は高校でも海外異文化体験研修が行われ、7月29日～8月18日の3週間、同じアデレードの地で5人の高校生がホームステイを行いました。他の学校の生徒との合同実施の形でしたが、その分新たな友情も芽生え、楽しく充実した毎日を送っていました。

一貫コースの参加者にとっては2度目の訪問になりますが、それが緊張感をほぐし、普通コースや特進コースの参加者の安心感にもつながったと思います。

英語力も上がり、人間的にも大人に近づきつつある高校生は、中学生以上に多くのことをこの研修で吸収したことでしょう。来年以降このプログラムが学校全体に浸透し、より多くの高校生が参加してくれることを期待しています。

中学第3学年主任 加藤昌弘

## NHK ロボコン 2011 ヘシード校として出場 ～僅差で決勝トーナメントへの進出を逃す～

NHK 大学ロボコン 2011 大会が、6月12日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。この大会は世界大会である「ABU (アジア太平洋放送連合) アジア・太平洋ロボットコンテスト」の代表選考会を兼ねて行われました。

今年は全国 50 大学 59 チームから、21 チームが選ばれて出場しました。工学院大学は、古賀朝博さん(環境エネルギー化学科 3 年)をリーダーとする KRP (工学院大学ロボットプロジェクト) が、事前審査で完成度の高いシード校 7 チームに選ばれました。

またこの大会では、東京の大学としては東京大学、東京工業大学、東京農工大学、電気通信大学、そして工学院大学が参加しており、東京の私立大学として唯一の出場校となります。

大会では出場校が 7 つのリーグに分かれて予選リーグを戦い、上位 8 チームが決勝トーナメントへ進出しますが、予選 E グループにて 1 勝 1 分け(同点判定で敗戦扱い)となり、残念ながら僅差で決勝トーナメントへの進出を逃しました。

今大会は東京大学が、課題の“ロイ・クラトンの火”を決勝まで全て完成させて、圧倒的な強さで優勝し、日本代表としてタイで開催の世界大会へ出場することになりました。大会までの 1 年間、KRP の学生自身による設計・制作、テストランなどチームのメンバーが一体となって熱心



に活動してきた経験を後輩へ受け継いで、次回はさらに上位の結果を残せるように活躍することを期待します。

## ソーラーカープロジェクトが部門第 2 位入賞！



8月9日～12日に秋田県大潟村で開催された『2011 ワールド・グリーン・チャレンジ』において、「工学院大学ソーラーカープロジェクト」チームが、「ソーラーカー部門チャレンジクラス」で第2位に入賞と大健闘しました。

この大会は、3日間で合計 25 時間走行し、総合距離を争うソーラーカーの耐久レースです。工学院大学チームの走行距離は 36 周 (900km)。最終日の午前中

まではトップでしたが、曇りの天気となり失速。晴天があと 30 分程続けば、優勝を狙えるという接戦でした。

本学の車両は安全性を重視した 4 輪タイプ。実用的な車に近い先進のソーラーカーです。新コンセプトの車両が、レースを引っ張り、本学の高い技術力が証明されました。今後は、2 年後のオーストラリア世界大会への出場・優勝を狙うことがチームの目標です。

## 昨年を大きく上回る約 9300 名が来場 第 18 回理科教室も大盛況のうちに終了しました



本学は「若者の理科離れ」「理科教育の危機」が深刻化した 1990 年代初頭に、建学以来蓄積した理科教育に関わる知識と、ノウハウを活用した社会貢献事業を展開してきました。

その事業の一つとして、毎年 8 月下旬の土曜日と日曜日の 2 日間、子供たちを理科好きにする地域の夏の

行事として定着した「理科教室」が、今年も 8 月 20 日と 21 日に八王子キャンパスで開催されました。

18 回目を迎える今年は、開催 2 日間の両日とも雨に見舞われましたが、昨年度を 1000 名近く上回る約 9300 名の小・中・高校生が来場。大盛況となりました。

## 第 9 回 全日本 学生フォーミュラ大会に KRT が出場



9 月 5 日～ 9 日、静岡県・エコパにて、第 9 回全日本学生フォーミュラ大会が開催されました。この大会は、学生が自分たちで構想・設計・製作した車両による手作りレーシングカーの競技会です。

本学は、長澤拓さん（機械工学科 4 年）をリーダーとする学生フォーミュラプロジェクト (KRT) の 20 名のチームが出場しました。

今年は昨年の上位躍進の実績から期待が高まる中、前半の各種目で昨年以上の成績を残しましたが、メインの最終走行の種目で残念ながらリタイアとなり、総合成績は 32 位でした。この経験を生かして、来年はより高性能な車両を設計・製作して大会へ出場することを期待します。

## 第11回ホームカミングデー開催 約500名が母校を懐かしむ



11月3日にホームカミングデーが新宿キャンパスで開催されました。

第1部では創立記念表彰式や水野明哲学長、宮下正昭校長からの学事報告を行い、第2部では学生による「工学院大学ロボットプロジェクト (KRP)」と「ソーラーカープロジェクト」の報告を講演し、展示されたロボットとソーラーカーが注目を集めました。第3部は創立125周年に向けたキックオフイベントを開催。

会場には和太鼓の鼓動が響き渡り「不撓不屈」の幟がおごそかに掲揚され、学園・校友会の発展と東日本大震災の鎮魂・復興を祈願しました。その後行われた懇親会では中高吹奏楽部の演奏・ダンス・合唱が会場を盛り上げていました。

今回は過去最多の約500名もの方が参加され、懐かしい学園で交流を深められた嬉しいホームカミングデーとなりました。

## 本学新宿キャンパス地下エントランスが “大学の顔”に生まれ変わります



現在、新宿駅から来校する人々の約8割以上が、地下道を歩いてこの地下エントランスを利用しています。この地下道がつくられた当初は、その入り口は単なる通用門として計画されていたので、車道と歩道が壁で区切られておらず、入り口の幅や見栄えなど含めて、とても「大学の顔」とは言えない状況でした。今回の改善点は、自立型看板や配布パンフレットなどを置かないようにする、広々としたエントランスの幅を確保する、車いす用エレベーターを使いやすくするなど大学の顔にふさわしい雰囲気作りを主旨としました。例えば、地下道を歩く人は3秒程度で通過してしまうた

め、その通過時間を長くして注目されるように、階段の幅を下に行くほど広く作り直しました。また現在、階段の真ん中にある地下通路の柱の存在を弱めるように、人目を引く壁のデザインを施しました。さらに階段上部には天窗を設け、階段を登る人が超高層の大学ビルを見上げて、今から入る建物の姿をとらえることができるようにしました。曲面の「クラフトマンウォール」は、工学院大学ならびに日本の技術界における過去と未来を表現しています。将来、現在技術開発中の透明ディスプレイ掲示を実施する計画です。

## サイエンスフェスタ in 諏訪 —理科の奥深さを伝える講演に—



11月19日・20日の2日間、長野県諏訪市にて「サイエンスフェスタ in 諏訪」が行われました。

19日に行われた「学園創立125周年記念講演会」は、第1部では三浦宏文顧問による「私のロボット開発記～知能ロボットから昆虫ロボットまで～」、第2部では藤森照信教授（建築デザイン学科）による「湖畔に映える建築美～片倉館・諏訪市美術館・諏訪湖ホテル迎賓館をめぐって～」を講演。それぞれ150名を超える市民らの参加者があり、大盛況となりました。また、20日に行われた「諏訪市出張理科教室」では、大学生、大学院生、附属中学校・高等学校、大院連携協定校、そして地元高校が参加し、約1,200名以上の小・中・高校生および保護者に、楽しい理科実験や工作17テーマで演示を展開しました。

初参加となる地元高校の諏訪清陵高校化学部の生徒と教員9名が独自テーマ「元・銅メダルが銀や金メダルに?!～亜鉛メッキと黄銅～」を展開し、来場者の注目の的。また、藤森教授の建築模型作品や卒業



設計作品の展示を行い、大変好評をいただきました。

山田勝文諏訪市長や諏訪市教育長に出席していただいた懇談会の中では、市側より次年度以降も開催して欲しいとの強い要望がありました。

## 附属中高のスクールバスがますます便利に！ JR八王子駅、京王線北野駅から新規運行！

10月3日から附属中学校・高等学校のスクールバスに、JR八王子駅と京王線北野駅からの2路線が加わりました。従来のJR・西武線拝島駅からも含めて合計3路線となり、通学がますます便利になりました。最短で八王子駅、北野駅ともに20分での通学が可能です（道路状況などによって若干前後します）。

11月からは装いも新たに、シンボルカラーのブルーのラインが爽やかな新車のスクールバスがデビューしました。



# 校祖 渡邊 洪基

茅原 健

*profile*

かや はら けん  
茅 原 健  
昭和9年10月23日生



**学歴・職歴**

1934年東京に生まれる。中央大学法学部卒。  
工学院大学総務部次長、同学校法人評議員、同学園開発本部長。学園街区共同事業体のエステック(株)の専務取締役。後、(財)日本私学教育研究所の専任研究員、事務局長、理事を歴任。現在、工学院大学参与(学園125年史編集担当)。

**主な著書**

『民本主義の論客 茅原華山伝』、『新しい教育環境と学校施設』、『新宿・大久保文士村界限』、『工手学校』など。



前列左から3人目渡邊洪基、同4人目福沢諭吉(慶應義塾写真データベース)

### ◇ 孝一郎・静壽の時代

学園(工手学校)の生みの親である渡邊洪基は、1848(弘化4)年、越前(福井県)武生町で蘭方医の家に生まれた。幼名孝一郎。かなりの腕白であったらしい。近所の子どもと派手なケンカをしたと伝えられている。学齢に達した孝一郎は、家業の医業を継ぐはずであった。のちに、「上医は国を医し、中医は医を医し、下医は人を医す、乃公何ぞ下医に甘ぜんや」といって、結局、医学の道には進まなかったが、上京し

て順天堂の創設者佐藤尚中(舜海)の医塾に学んだ。その後、箕作麟祥に英学を学び、師と仰いだ福沢諭吉の慶應義塾に入門している。この頃、「医名」として父の静庵の一字をもらって、静壽と名のつたらしい。その静壽は、幕府の医学所に入り句読師となり、戊辰戦争の時は、彰義隊に加担し、さらに幕府医官松本良順に従って、朝敵と目された会津、米沢に向かっている。政府軍に追われる身となった静壽の行動は、旧幕臣の立場にあったことを意味している。



渡邊 洪基



国立国会図書館蔵



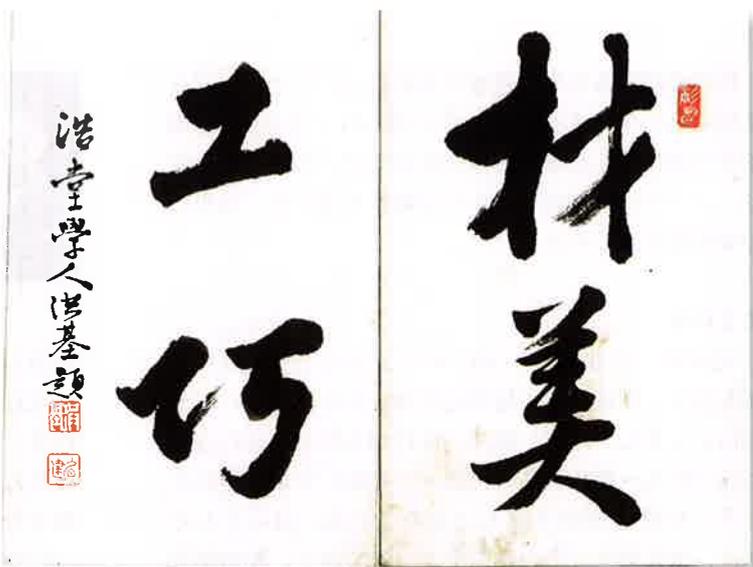
復刻版グラビア (筆者蔵)

### ◇ 洪基の時代

先に述べた洪基の幕臣としての政治姿勢は、彼の思想信条の中枢を形成していると思われ、これが工手学校の開校式典などに、新政府に楯を突いた大鳥圭介、榎本武揚、赤松則良、澁澤榮一、田口卯吉などの旧幕臣の系譜に連らなる人物が出席したことに連携していると思われるのだ。しかし、洪基は、大学少助教を皮切りに明治新政府の官僚として任用され、特命全権大使として欧州に随行し、太政官大書記官、東京府知事、帝国大学初代総長などを歴任する。だから、洪基の経歴は、「明治国家のプランナー」という範疇でその業績は語られている。にもかかわらず、渡邊洪基の知名度は低い。なぜだ。たとえば、渡邊洪基帝国大学初代総長は、「前東京府知事という妙な経歴持つ官僚で、大学人から違和感をもって受けとめられた」（立花隆『天皇と東大』文藝春秋）というように、教授歴のない大学総長は、アカデミックの世界では負の存在だった。洪基の表向きは栄達の官であり、集会条例起草という権力に与した側面もあったが、彼が中心となって非藩閥系の人材を集めて活動した「萬年会」、「興亜会」などの社会的営為は、民の側にあった。この官と民との狭間でその名が鮮明にならなかった嫌いがある。

### ◇ 浩堂・旦堂の時代

明治人は、別号を好んだ。たとえば、夏目金之助は



『造家必携』より (筆者蔵)

漱石、森林太郎は鷗外といった具合だ。この雅号(別号)を付ける理由は色々あって、隠逸志向もあったろうが、権力に斜に構えた姿勢があったようにも思える。渡邊洪基にも別号があって、浩堂、旦堂と称した。訥弁であったが、面倒見のいい男であったらしく、「三十六会長」といわれるほどいろいろな会を立ち上げてその会長に就任した。このような民間事業の活動をすると、別号を使ったと思われるのだ。たとえば、産業保護主義を主張した『利園新誌』(利園社)という雑誌を1889(明治22)年に創刊したとき、そこに掲載した彼の文章は、「浩堂學人」という筆名を使っている。渡邊は1901(明治34)年に死去して、「夢」という墓誌の墓石を建てた。工手学校をはじめ「民」にあった渡邊洪基をもっと語るべきだと思う。

# 渡邊洪基先生にまつわるノート

大橋 秀雄

profile

おお はし ひで お  
大 橋 秀 雄  
昭和 6 年 5 月 10 日生



略歴

東京生まれ。昭和19年都立第四中学校(現戸山高校)に入学直後、父北京で戦病死、陸軍中将。「跡を継いで立派な軍人になりなさい」と母にいわれ、翌年4月東京陸軍幼年学校(西八王子)に入学、8月敗戦、即廃校。敗残兵姿で父の郷里、新潟県の山村に疎開していた母の元に帰る。

地元の県立村松高校卒業、東京大学理科一類入学。昭和29年工学部機械工学科を卒業し、石川島重工業(現IHI)に入社。5年在籍し、そのうち2年間ドイツ政府留学生とし渡独、Dr.-Ing.の学位を得て帰国。昭和34年東京大学に移籍し、講師、助教授、教授として33年間工学部機械工学科で教育と研究に従事。専門は流体工学。平成4年3月定年退職、東京大学名誉教授。

同年4月から工学院大学教授、平成6年から9年間学長を務める。平成15年3月退職、工学院大学名誉教授。同年4月から平成23年3月まで学校法人工学院大学理事長、以降同顧問として現在に至り、妻と静かに暮らす。子供男二人、孫男三人。

校祖渡邊洪基先生の経歴や業績については、伝記本を始めとして、本会報でも多く語られてきた。125周年を目前に控えた本号の短い紙面では、あえて的を絞り、ノートに書き留めるような断片を通じて、校祖のお姿を描き出してみたい。

生まれ年

校祖は、弘化4年、1847年生まれとされている。私も学生・生徒諸君に校祖を紹介するとき、そのように伝えてきた。昨年、瀧井一博氏が本学で「忘れられた知の巨人～渡邊洪基の生涯～」と題して講演されたとき、校祖を1848生まれと紹介された。はっとした私は、瀧井先生にその疑問をぶつけてみて、始めて気付いた。校祖は大晦日も近い12月23日生まれである。当時はもちろん旧暦で、明治5年になって、その年の12月3日が新暦の明治6年(1873年)1月1日に切り替えられた。弘化4年の大部分は1847年であるが、12月3日から31日までは1848年である。校祖は新暦では1月生まれであるが、実際には年の瀬も慌ただしい最中に生まれた。受け止め方もかなり違う。年号の疑問は解けたが、旧暦の日本史を西暦で表現するときの落とし穴を改めて思い知った。

初代総長

校祖が初代総長を務めた帝国大学は、その歴史の中で様々に名前を変えてきた。明治10年創設の東京大学に端を発し、明治19年の帝国大学令に基づいて工部大学校を併合し、五つの分科大学からなる帝国大学に改組された。それが明治30年に東京帝国大学、昭和22年に東京大学と名を変えて今日に至っている。問題は、始めと終わりが同じ名前では区別がつかないことにある。最初の東京大学は加藤弘之が総理を務め、



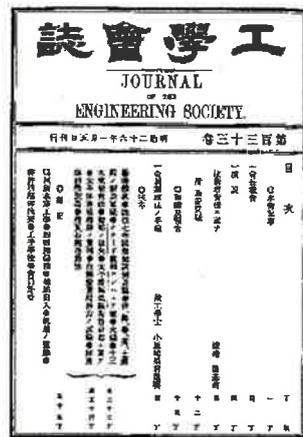
帝国大学総長 5代目まで

帝国大学になって渡邊洪基が総長に任命された。

東京大学の初代は誰かと問われるとき、混乱が生まれる。学者の頭目であった加藤と、政治任命の渡邊、初代の榮譽をめぐって応援団が分かれたことは想像に難くない。しかし、法令に基づきわが国初の総合大学(当時唯一)として誕生した帝国大学の初代総長は、紛れもなくわが校祖である。

学医匙回らず

校祖は、明治25年11月工学会の通常総会で「技術者責任に就いて」と題する講演\*を行った。これが我が国で技術者倫理に言及した最初のケースと見なされており、欧米でEngineering Ethicsが問題となり始めた1910年代より20年も先駆けていた。この意味で、校祖は日本はおろか、世界のパイオニアといえる。その中で、校祖は「学医匙回らず」という格言を使って技術者を戒めている。知識だけの医者では処方すらできない。同様に、知識だけの技術者では設計図も引けない。



処方とは知識に基づき判断を総合した決断の結果である。設計図も、同様に判断と決断の結晶である。「工学士線引けず」では使いものにならない。高い責任感で判断と決断を下す。これが技術者倫理の根幹であるから、校祖の適切な喩えに改めて感服する。

科学技術

これまで、科学技術とは科学 and 技術なのか、それとも一体なのか意見が様々であった。最近では、科学・技術と科学技術が使い分けられるようになってきた。科学・技術は文字通り科学 and 技術、科学技術は科学に立脚した技術である。Engineering は Science based Technology と定義されるから、科学技術はエンジニアリングそのものである。校祖は明治19年東京化学会で行った講演\*の中で、「技術は理化(現在の科学)に基盤をおかなければ発展性がない」といって、技術と科学は無縁であるとされていた当時の常識を覆す発言をしている。技術を学ぶものは科学や数学の基礎を固めなければならない。この基礎重視

の技術教育が工手学校以来の伝統となっている。ここにおいても、わが校祖は際だった先見思想の持ち主である。



日本画家渡辺玉花

校祖は、長年連れ添った妻貞子との間で子供に恵まれなかった。貞子の没後、洪基は53歳のとき松子と再婚したが、やがて待望の懐妊の知らせがもたらされた。そのとき校祖は病の床に伏せていたが、その喜びはどんなに大きかったことか。無事に生まれた娘は貞子と名付けられたが、校祖はその後わずか一ヶ月でこの世を去った。際どいタイミングだったが、校祖の血を引く唯一の子孫が残された。

貞子は10歳から日本画を学び、川合玉堂門下の山内多門、大和絵の吉村忠夫らに師事して研鑽を重ねた。昭和4年帝展で初入選して以来、総理大臣賞、文部大臣奨励賞などの受賞を重ね、玉花の画号で日本画家として名を成した。源氏物語に題材する色彩豊かで叙情的な絵が、とくによく知られている。

新宿校舎のアトリウムで、父洪基の胸像が並ぶ壇を左側に降りると、仏像を刺繍する平安女性を描いた120号の大作\*\*が目にとまる。もちろん玉花の作品で、まさに親子の共演である。そのほか、本学には合計14幅の玉花作品が散在しており、無機的な新宿校舎の雰囲気、まさに花を添えている。絵には、玉花の署名と、倭多奈遍の4文字を刻んだ落款が押されている。

理事会が開催される高層棟28階の役員会議室にも、源氏物語の「花の宴」に題材をとった大作が架かっている。光源氏と朧月夜の姫の別れの場面を描いたもので、物語の中でも圧巻の情景である。理事長席に座ってその絵と向かい合い、心の中で「堅いばかりが能じゃない」と呟きながらも、ひたすら手堅い経営に励んだ8年間だった。私にとって思い出深い一幅である。

注\* いずれも、日本近代思想大系(岩波)第14巻に収録されている。

注\*\* 学園創立50周年のお祝いに寄贈された。



玉花作品 繡仏(アトリウム)



花の宴(役員会議室)

# 渡辺洪基の「老いらくの恋」「吉見百穴の発掘調査支援」「書」

高橋 政雄

profile

たか はし まさ お  
高 橋 政 雄



学歴・職歴

昭和22年5月新潟県柏崎市に生まれる。法政大学法学部卒業。学校法人工学院大学・総務部長、事務局長、評議員、理事歴任。

学外の活動

川口市短歌連合会副会長。元埼玉県歌人会理事。川口市市民短歌大会選者。

○ 最近、年下女性と結婚する芸能人のことが話題になっている。生活力・精神力に余裕を持ち、女性を守る関係がうまくゆく秘訣ということだが、それはどうでもいい。わが渡辺洪基が、まさしく「年下婚」の実践者である。



この写真を見ていただきたい。洋装、蝶ネクタイ姿の渡辺洪基と、和服姿のご婦人である。お孫さんの洪(ひろし)様にお訊ねしたところ、明治32年6月に撮影されたもので、同年2月に結婚した新妻・松子を伴って、写真館で撮影したものと思われる、というご返事をいただいた。そうすると、洪基は53歳、松子は38歳ということになる。年の差15歳である。洪基は、先妻貞子によく似た松子が大愛お気に入り、友人達からからかわれもし、新聞では「老いらくの恋」と囃されたという。

洪基は、結婚の1カ月ほど前、「枝折戸(しおりど)の松の月影いやすみぬいつこ(いづこ)に妹が琴をひくらむ」と、松子を待ち望む心境を詠んでいる。大先生、あまりにも純情である。

○ 話は変わって、渡辺洪基が帝国大学総長であったころの事、吉見百穴を視察し、発掘調査の支援を決定している。その辺のことを書いてみる。

埼玉県出身で浪士組(のち一部が新撰組)に加わった者に根岸友山がいる。浪士組が小石川伝通院を出発したのは、文久3年(1863)12月8日。根岸友山は、一番組組頭であった。明治20年(1887)8月、時の帝国大学総長渡辺洪基は、その根岸友山の二男・根岸武香の家を訪問している。

根岸武香は、長男が生後二カ月足らずで死亡したため、豪農根岸家の後継者と目されて育った。

吉見丘陵(現在の埼玉県比企郡吉見町)に、十数個の穴口があることは、すでに江戸時代の中頃に知られていて、地元の人々は、「百穴」(ひゃくあな)と呼んでいた。

明治時代になって、吉見百穴の発掘調査を提案した者が出た。帝国大学大学院生坪井正五郎である。

明治20年、坪井は卒業論文作成のため、吉見丘陵の横穴の解明に取組みたいと考え、地元の素封家で郷土史家でもある根岸武香の家を訪れ、予備調査をした。その結果、予想を超えて多くの横穴があることを知った。大がかりな調査をするには、膨大な資金がいる。そこで、大学に資金援助を申し出た。総長渡辺洪基は、自ら現地視察をして判断することにした。同年8月17日現地に到着して、百穴を視察。翌日、近くに



吉見百穴の多色刷木版画(明治21年発行)  
—吉見町役場発行「吉見の百穴」より—

ある黒岩横穴群を視察し、根岸家で武香が収集していた古器物を見学した。大学に戻って、発掘調査の支援が必要なことを力説した結果、発掘調査支援が決まった。以後、全面発掘に向けて取り組みが開始された。ここにも渡辺洪基の先見性と行動力を伺わせるものがある。

坪井正五郎は、吉見百穴をコロボックル（アイヌの伝説的な先住民である土蜘蛛人）の住居跡とする説を発表し、学会に論争を巻き起こした。その後、考古学の発達により各地で横穴が発見され、大正時代に入って、古墳時代後期に死者を埋葬するために作られた群集墓であることが明らかになった。いま、次のようなところに落ち着いている。

集団的な家族墓／作成年代は起源 600 年前後／作成者は渡来系氏族

なお、この吉見百穴は、大正 12 年（1923）に国指定の遺跡として認定されている。

根岸武香が、国に保存を願い出た「意見上申書」の写しが残っているのです、その一部を次ぎに抜粋する。

〔前略〕明治廿年八月、大学院生坪井正五郎氏来リテ試掘セシニ多数ノ土室アル事を発見シ、依テ坪井氏コレヲ帝国大学ニ建議シ、削掘ノ為金円支出ノ事を請願シ、帝国大学総長渡邊洪基氏理科大学長菊地大麓氏ノ賛成ニ由リ許可ヲ得（後略）

（校友会の皆様も、機会があったら、是非吉見百穴を見ていただき、渡辺洪基が支援した事業の一つがここにある、ということをお伝えいただければと思う。）



—現在の吉見百穴—

○ 右上に掲げた書は、学園の創立者渡辺洪基の書で、いま、新宿校舎 13 階役員会議室に飾られている（都内在住の一般篤志家吉川隆博氏より、前大学事務局長中村智氏を介して本学に寄贈）。寄贈者の友人である中国遼寧省本溪市外事弁公室・王瑞楠氏に読み下しを依頼したところ快諾を得た。以下にそれを記す。

芝海弟洲漾月光 山空遠兮水空長  
依龍几上書詩卷 狂撒英雄會一堂  
訪鳴雪風席上次韻 浩堂學人洪基

為書きに「鳴雪風」とある。鳴雪とは、俳人内藤鳴雪（弘化 4（1847）年 - 大正 15（1926）年）のこと。伊予松山藩士の子として三田の松山藩江戸藩邸に生まれ、のち文部省参事官を経て、旧藩設立の寄宿舎・常磐会の監督をしている時に、寮生として入寮してきた正岡子規に俳句を学び、門弟になった。代表的句作に「初冬の竹緑なり詩仙堂」がある。本名内藤素行、漢詩号南塘、俳号鳴雪である。

この漢詩（七言絶句）は、洪基が、その鳴雪を訪問した折に作った詩と思われる。

鳴雪は、子規の外祖父・大原観山に漢学を習い、漢詩人としても通っていた。詩作は当時の教養人の嗜みの一つであり、洪基もまた折に触れて漢詩を作っている。

鳴雪自叙伝をみていたら、鳴雪がある学者の家を訪問した時、学者の客人が席上で七言律詩を作った。すると学者は「直ちに次韻して唐紙に揮毫せられた」という一節があって、これを参考に推測すると、主人・鳴雪が漢詩を作り、客人・洪基が、次韻（韻に同じ。他人の詩と同じ韻字を同じ順序で用いて詩作）して作ったのが、この漢詩ということになる。

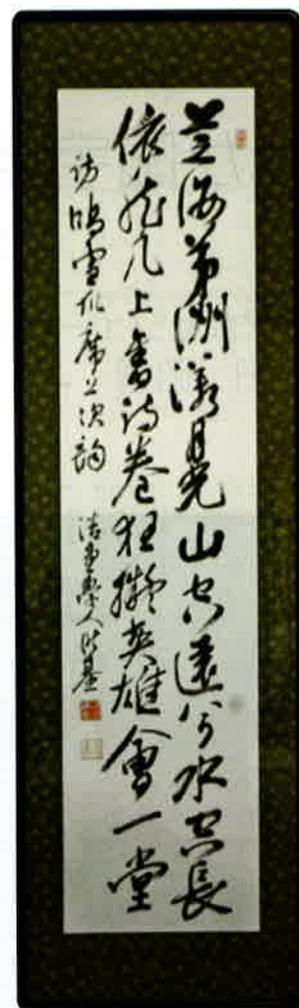
揮毫の年代は、号の「浩堂」にヒントがある。この号を使い出したのは、明治 34 年頃から（渡邊信四郎「渡邊洪基小伝」）で、洪基最晩年の作ということになる。「芝の海」であるが、鳴雪は三田にあった松山藩中屋敷（慶應義塾北隣の高台）で生まれ育っている。また洪基は、東京芝区佐久間町（今の西新橋）に自宅があり、芝区選出の東京市議員、国会議員であったこともあり、二人とも芝の海はよく知っていた。

最後に、一つの意識を記す。

芝の海、その小島に、月の光が漂う。  
山々は遠く連なり、水はどこまでも流れていく。  
龍の椅子<sup>\*</sup>に依った机の上には、詩書が積み上げられ、一堂に会する我ら、意気軒昂し、詩作に興じる。

俳人鳴雪を訪ね、その席上にて詠む。浩堂學人洪基

<sup>\*</sup>龍の椅子=龍が彫り込まれた椅子。王の玉座に倣い、学問を志す人が好んで用いた。



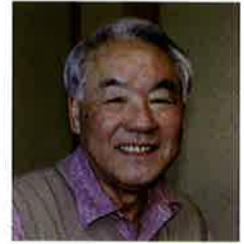
渡辺洪基の書

# 我が国宇宙開発の 一翼を担う

株式会社シューゼット会長  
石田 昭徳

## profile

いし だ あき のり  
石 田 昭 徳  
1939年11月23日生



### 学歴

1958年 4月 工学院大学附属高等学校 工業経営科卒

### 職歴

1958年 4月 石田鉄工所 入社

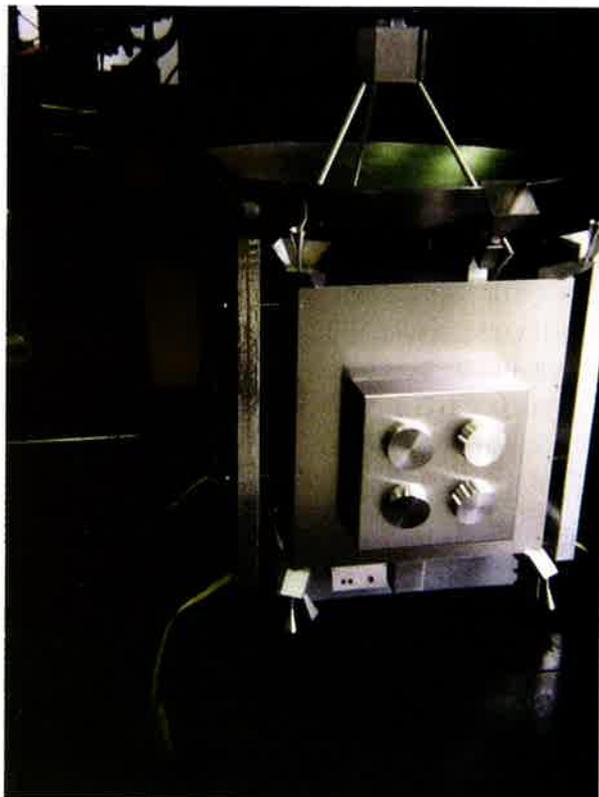
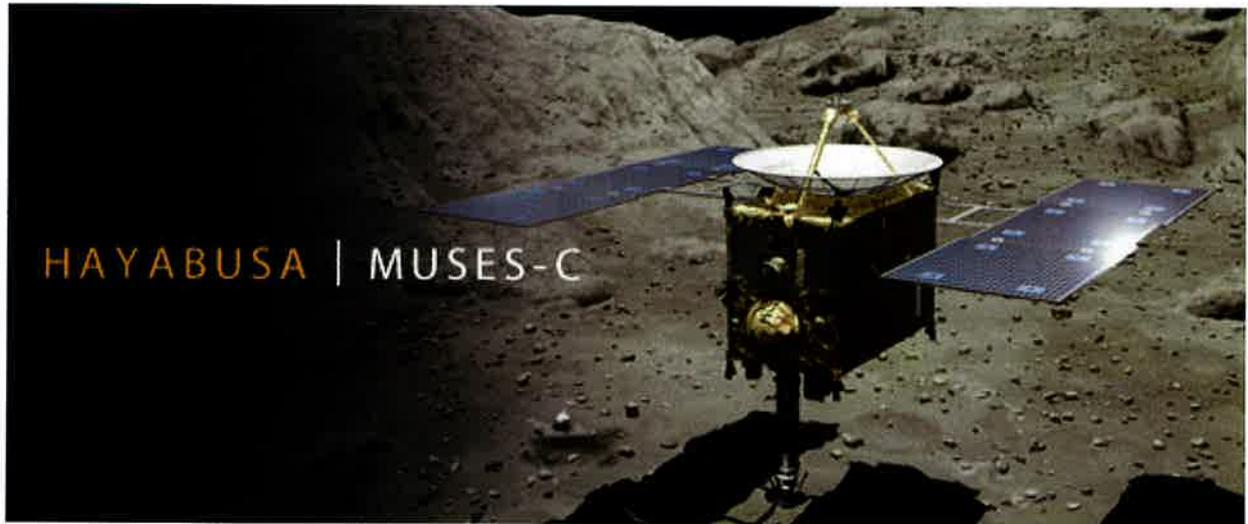
1960年 2月 埼玉県戸田町に移転 (有)石田鉄工所 改組

1963年 12月 取締役 に就任

1975年 6月 代表取締役 就任

1993年 8月 (株)インダに組織変更

2010年 8月 (株)シューゼットに社名変更 取締役会長 就任



小惑星探査機「はやぶさ」  
通信実験用試作機

2003年5月に日本から打ち上げられ、2010年6月、7年ぶりに奇跡の生還を遂げた小惑星探査機「はやぶさ」の偉業は世界を驚かせました。

「はやぶさ」が小惑星イトカワのミューゼスの海に降下し持ち帰った物質は、SEM（走査型電子顕微鏡）の分析によって、イトカワ由来であることが判明し、人類史上初の無人衛星によって採取された地球外物質であることが証明されました。

これにより日本の宇宙開発技術の高さが実証され、現在建設中の国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」の開発に弾みがつくと期待が高まっています。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）が行った画期的なミッションの重要な部分である「はやぶさ」本体の、通信実験用試作機を製作したのは、工学院高校を卒業された石田昭徳さんです。

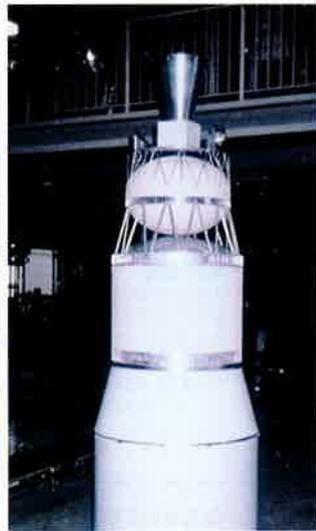
石田さんは高校を卒業後、家業の鉄工所を継がれ研鑽を積まれました。1978年に初めてTT-500型ロケットの実験用モデルの製作を受注し、見事に期待に応えました。

機体を構成する素材として、軽量で強度の高いアルミ合金が使われます。当時、アルミ合金の精密な加工技術は、石田さんの工場が他の追随を許さなかったようです。特に寸分の狂いも生じない溶接技術が評価され白羽の矢が立つ

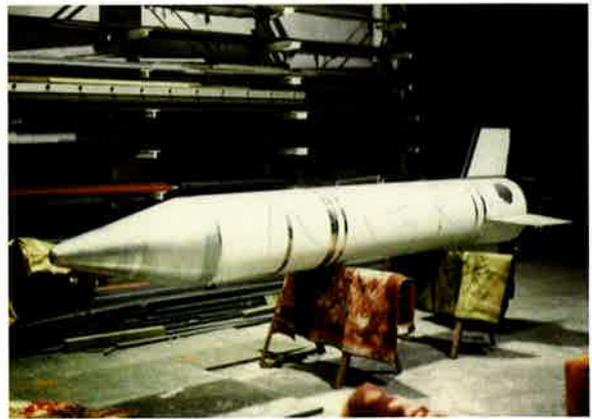
我が国宇宙開発の一翼を担う  
石田 昭徳



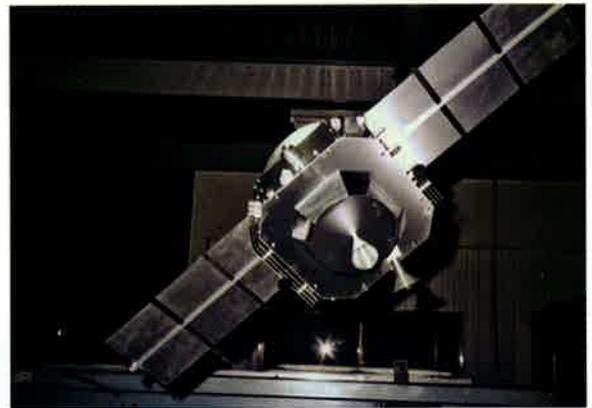
地球観測技術衛星「みどり」



H-2A型 ロケット



T T-500型 ロケット



火星探査機「のぞみ」



月周回衛星「かぐや」

たようです。川口市にある従業員6人の、町工場と呼ばれるような規模の会社が宇宙開発に関わると言うこと、それ自体が素晴らしいことだと思います。

T T-500型ロケットの製作以来現在まで、宇宙衛星、打ち上げ用ロケットの我が国で作られる通信実験用試作機の大半は石田さんの工場で作られています。また、実機に搭載されて宇宙を航行する衛星の重要な部品も多くあります。石田さんは、「実機は6~7倍あり人が中に入ることが出来ます。人が容易に潜り込むことが出来ない実験用縮尺モデルこそ、溶接技術者の腕の見せ所です。」と温和な表情の中にも、誇り高い職人気質を覗かせていました。

昨年秋、取材のため訪れた折、石田さんは次回のプロジェクト「イプシロン・ロケット」の準備にお忙しい様子でした。依頼された1段目、2段目の機体図面を手配用の製作図に書き換えるCAD作業を、石田さん自らの手で行っていました。

イプシロンロケットは、世界初の試みである革新的打ち上げシステム（モバイル管制）で、未来のロケットのお手本になると言われるもので、2013年予定の初号機の打ち上げが、今から楽しみに待たれるところです。

（取材・木本勝正）



イプシロンロケット  
(2013年打ち上げ予定)



2009年、埼玉県知事より「彩の国工場」に指定。  
ご子息・石田富照社長（左）と上田きよし知事。

# 「電気、水道、ガス、ダイシン」

(株)ダイシン百貨店  
代表取締役社長 西山 敷

## profile

にし やま ひろし  
西山 敷



### 学歴・職歴

1947年東京都・赤坂山王生まれ。工学院大学建築学科卒業後、日産建設を経て長崎屋に入社。ショッピングセンター、フランチャイズチェーン店の開発に携わる。1977年、商業建築計画研究所(現、(株)商業建築)を設立し、全国で店舗・商業施設を多数設計する。2004年よりダイシン百貨店の経営再建を手がけ、2006年代表取締役役に就任。「住んでよかった街づくり」を経営理念とし、半径500m圏内シェア100%主義の「地域密着と、高齢者に優しいサービス」で注目を集めている。

### ■テレビ「カンプリア宮殿」で紹介

大田区 JR 大森駅から約10分のダイシン百貨店には、ご高齢のお客様が多い。60歳以上でおよそ半数、50歳以上だと、7割位を占めるだろうか。

しばしばテレビ局や雑誌の記者が訪れ、「高齢者にターゲットを絞り」「昭和レトロな品揃え」と紹介してくれる。反響が大きかったのが、2010年6月28日放送のテレビ東京「カンプリア宮殿」。店の宣伝にも

なるので有難いことだが、実はこれは「経営戦略」などではなく、「長い歴史の結果」にすぎない。

大森山王の地で八百屋として開業して63年。お客様の声に応じてメリヤス肌着、電化製品と扱い品目を増やし、東京オリンピックの昭和39年に「生活百貨店」として「ダイシン」に屋号を変えた。

当時からご愛用いただいているお客様が、今はたまたまご高齢になられただけ。商人のほうから「ターゲッ



1. 新築外観パース。左側が第1期、右側が2012年夏オープン予定の第2期工事。



2. 新築外観パースの俯瞰図。水と緑をテーマに環境共生型のコミュニティスペースとなる。



3. ダイシン百貨店外観。左側が第1期オープン中の新館、右側が第2期工事で建て替えられる旧館。



4 &amp; 5. 2011年2月25日第1期オープン時の店内の混雑。



6. 2011年の「山王夏祭」会場。



7 &amp; 8. 「山王夏祭」も従業員の手作りで開催され、お客様との直接コミュニケーションの場となる。

「電気、水道、ガス、ダイシン」

西山 敷

トを絞る」なんて、おこがましいことはできない。

### ■効率追求の「ビジネス」に疑問

ITやバーチャルな世界が進化したせいも、最近では頭で組み立てた「経営戦略」や「ビジネスモデル」が幅を利かせている。小売業も「土農工商」の一番下だったはずだが、いつのまにかアメリカ流の、効率と市場競争を重視した「ビジネス」に席卷されてしまったようだ。しかしこれは、将来も持続可能な事だろうか。

私がガキ大将だった子供時代には、「商い」はもっとぬくもりのある世界だった。近所の駄菓子屋や商店街のおじさん、おばさんから叱られたり教えられたり。ごく身近な場所で、大人から子供へと、日本の文化やマナーが継承されていた。「商い」は「ビジネス」である以上に「コミュニケーション」の場だった。そして「コミュニケーション」は、本来、効率化できないもののはずだ。

### ■「電気、水道、ガス、ダイシン」

日本では格差社会が進み、国や自治体の財政は厳し

く、税金頼みの高福祉には期待できない。高齢者や子供たちを含め、弱者にとっては大変な時代を迎える。これからは地域社会の中での見守り、支えあい、もっと言えばお互い顔見知りになれるくらいの狭い地域の中で、いかにコミュニケーションをとるかが大切だろう。相手の顔を覚えれば、思いやりも助け合いも自然と芽生えるものだ。

ダイシン百貨店に、上場企業や大手チェーン店にまねできないポテンシャルが、もしあるとすれば、「おらが街の、たった1店舗の百貨店」ということだ。ダイシンが自分の居場所となり、コミュニケーションの媒介となる。地域への愛着や帰属意識が生まれ、地元のお店を「ごいいき」いただく。地域の中でお金の循環が生まれれば、売り手も買い手も生活の質を高め、心豊かな人生を送ることができる。

これが私の理想とする、コミュニケーションのある「商い」の姿だ。その中で、「電気、水道、ガス、ダイシン」といわれるような、大森山王地域のインフラを目指してゆきたい。

### ■「住んでよかった街づくり」

工學院の建築学科を卒業し、商業建築の設計を手がけてきた私は、ずっと自分なりに「街づくり」について考えてきた。ところが偶然と運命のいたずらが重なって、設計事務所の所長だった私が自ら小売店舗のトップを引き継ぐことになってしまった。

2012年夏には、自分で企画設計した新築建て替え工事がグランドオープンする。新卒学生も2011年春には20名が入社、2012年も積極的に採用する予定だ。これからは、「商い」を通じた「街づくり」の夢を、若い世代へと引き継いでゆきたい。

# 子どもの「ものづくり」 ～諏訪市の取り組み～

山田 勝文

profile

やま だ かつ ふみ  
山 田 勝 文  
1951年2月9日生



**出身地**

長野県 諏訪市

**学歴**

昭和49年3月 工学院大学工業化学科 卒業

**職歴**

昭和49年4月1日 日弘ビックス 入社  
昭和54年3月31日 日弘ビックス 退社  
平成2年1月1日 諏訪青年会議所理事長 就任  
(~同年12月31日)  
平成5年10月1日 (有)山田養蜂場社長 就任  
平成11年4月28日 (有)山田養蜂場 退社  
平成11年5月1日 諏訪市長(1期目)就任  
平成12年7月1日 諏訪広域連合連合長 就任(~現在)  
平成15年5月1日 諏訪市長(2期目)就任  
平成19年5月1日 諏訪市長(3期目)就任  
平成22年4月30日 長野県市長会会長 就任(~23年4月8日)  
平成22年5月19日 北信越市長会会長 就任(~23年4月8日)  
平成23年5月1日 諏訪市長(4期目)就任

私は、工学院大学工業化学科、故草野先生の研究室でお世話になり、国鉄技術研究所で燃焼実験を中心に卒論をとりました。就職は草野先生の紹介で「日弘ビックス(株) (プラスチック顔料製造)」にお世話になり、その後、実家の「高原はちみつ山田養蜂場」(長野県諏訪市の山田養蜂場です。)に帰り、家業を継ぎました。青年会議所や商工会議所でまちづくりを学び、それらの活動が引き金となり諏訪市長選挙へ出馬、現在、諏訪市長として13年目を迎えています。

諏訪市は諏訪湖を中心に、さわやかな空気、おいしい水とともに美しい自然が残っています。霧ヶ峰や諏

訪大社、7年に一度の御柱祭、日本一の花火大会など話題は豊富ですが、ここでは、諏訪市の「ものづくり」への取り組み、特に子どもたちの「ものづくり」を紹介します。

「日本人の科学離れ」がいわれて久しくなります。子どもの頃「日本には資源がないので、輸入し、加工し、輸出しなければなりません。」と、常に聞かされ育った思いがあります。「追いつけ、追い越せ」から「GDP世界第2位」へ、やがて豊かさに慣れ、気がついた時には、「ものづくり」の風潮すらなくなりつつあるのが現実ではないでしょうか。



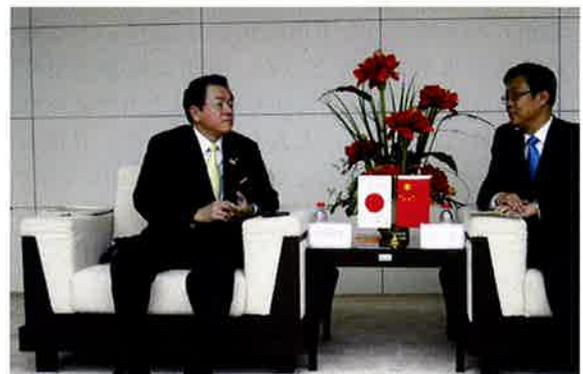
諏訪大社上社



諏訪湖祭湖上火花大会



北信越市長会会長として



大連市(中国)にて



ものづくり教育（ブックエンドづくり）



ものづくり教育（時計づくり）



出張理科教室（わりばしと輪ゴムで球体を作ろう）



出張理科教室（原色LEDを使い様々な色を作り出そう）

諏訪市を振り返ってみますと、江戸時代には農閑期を中心に、海苔職人として江戸に出かけ、やがて経営者となった方もおられます。明治に入ると、岡谷製糸を中心に工業化が進み、独自の機械開発も行われました。その後、戦時中の工場疎開により多くの工場や精密技術が諏訪の地にもたらされました。下請工場として独立が進み、「石を投げると社長に当たる」といわれた時代がありました。現在は、その小さな町工場も力をつけ、精密部品やスーパーデバイス等独自技術を持った中小企業まで発展し、特に諏訪地方は精密部品工業の集積地として名を馳せています。

これだけ歴史のある諏訪市においても、「ものづくり離れ」が危惧されるようになりました。ある精密工場の社長さんとお話した際、「青年に、ものづくり教育をしても、もう遅いかも知れない。さすれば、子どもたちへの教育だ。」との意見に意気投合しました。そんな話があってから数日後、その社長さんが「これで子どもたちへのものづくりの教育をしてくれ。」と、懐から100万円を差し出しました。

その日から、子どもの「ものづくり教育」の準備が始まりました。まず、教育委員会との打ち合わせ。教育委員会は市長部局から独立しているため、市長といえども教育分野に口をはさむことはできないことに

なっています。教育長と何回も話し合いを重ね、次第に形が固まってきました。教育長には、校長先生の説得や調整で多大なるご尽力をいただきました。本当に感謝しています。

その後、国の支援をいただき、キャリア教育の推進、子どもの「ものづくり教育」特区の取得、さらに、子どもたちへの「ものづくり教育」のサポートをしていただける地元協力企業探しなどに取り組みました。また、理科教材購入のため多額のご寄付をしていただけた方も現れました。現在、諏訪市における小・中学校の「ものづくり教育」は、「相手意識に立つものづくり」をテーマに、年間25時間の正規教科として行われています。前述の社長さんからも「子どもたちの考え方が変わってきたぞ。」との感想をいただいています。

そして昨年、工学院大学の「出張理科教室」を諏訪市で開催していただきました。大変好評を呼び、今年も11月に、「出張理科教室」としては最大規模で開催され、来年の開催もお願いしたところです。

諏訪の地で、ものづくりを学んだ子どもたちは、大学進学などで諏訪市を離れることがあっても、いつの日か諏訪へ帰り、諏訪のものづくりの中心となって活躍してくれるものと期待しています。

## 14th ISAVT 参加記

高橋 謙介

## profile

たか はし けん すけ  
高橋 謙介  
1975年8月26日生



## 学歴

1994年3月 新潟県立新潟高等学校 卒業  
2001年3月 近畿大学生物理工学部基礎機械工学科 卒業  
2004年3月 工学院大学大学院修士課程 修了(流体工学研究室)

## 職歴

2005年1月 株式会社FITUT研究所設立により入社 現職

E-mail : takahashi@fitut.jp

私は2011年5月11日から13日に、スコットランドのダンディーで開催された国際学会14<sup>th</sup> ISAVT (International Symposium on Aerodynamics and Ventilation of Tunnels) に恩師である水野学長と参加してきました。流体工学研究室の学生も一緒でした。

ISAVTとは、道路トンネル、鉄道トンネルの換気に関する国際学会で3年に1度(前回から2年に1度)開催され今回で14回目を数えます。参加者は山岳トンネルの多い欧州を中心に北米、アジア等から道路・鉄道事業者、換気機メーカー、換気コンサルタント、大学の研究者などが一堂に会します。水野学長は第4回からはほぼ毎回参加されており、流体工学研究室からも過去数多くの論文を発表しております。

一口にトンネルの換気といってもピンと来ないかもしれません。皆様は道路トンネルの中に大きな換気扇のようなものがぶら下がっているのを見たことはないでしょうか?あれは「ジェットファン」といい、数あるトンネル換気装置の中の一つです。そのジェットファンを平常時にはトンネル内走行時の視界確保や排気ガス等の滞留を避けるために運転をし、火災時にはトンネル内の避難環境の確保のために煙が広がらない

ように運転をします。ISAVTでは、このようなジェットファンなどの換気機の運転の効率的な運用方法、制御方針等について各国の取り組みや新しい提案などについて発表があり、議論がなされます。

流体工学研究室では水野学長の下、関越自動車道関越トンネルでの換気検討から過去30年以上にわたり研究を続けており、東京湾アクアラインや首都高速中央環状新宿線などでは過去の研究・知見を基に、新たな提案を行ない、日本の道路トンネル換気の発展に貢献しております。

私の勤務する株式会社FITUT研究所は、工学院大学の流体工学研究室が所有する道路トンネル換気のノウハウを幅広く利用していただくために、文部科学省の「大学等発ベンチャー創出支援制度」の採択を受け、2005年1月に誕生しました。現在そのノウハウを十分に生かしつつ、新設トンネルの防災検討のお手伝いや、既設トンネルの換気運用の見直しなどの業務を行っています。

今回ISAVTの会場となったスコットランドのダンディーですが、ゴルフで有名なセントアンドリュースの近くで、北海に面した港町です。ダンディーは、南



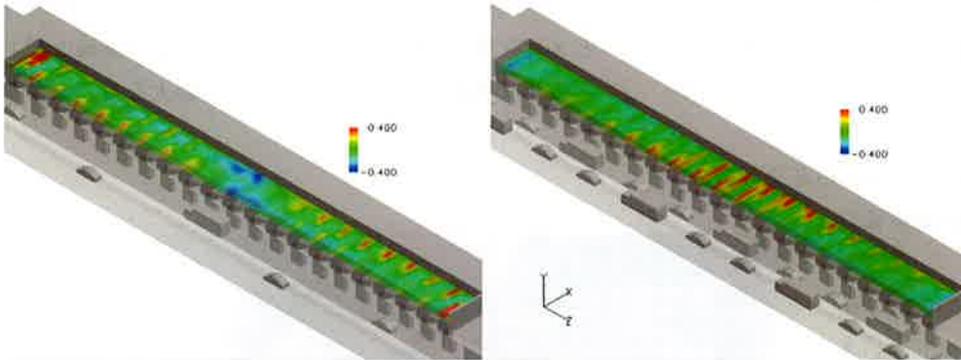
道路トンネル内に設置されたジェットファン



ロバート・スコットが南極探検をしたディスカバリー号



掘削構造内部 写真右側にT字に連なって見えるのは柱と梁でその上部が開いている  
柱の向こう側(右側)は反対車線



解析結果の一例(右:渋滞走行時 左:通常走行時)  
図中赤い部分が地下から地上へ噴き出しており、青い部分が地上から地下へ吹き込んでいる。車両の走行速度により空気の出入りするところが異なっている。



流体工学研究室の学生による発表の様子  
落ち着いた堂々と発表していました

極探検隊のロバート・スコットが使用した調査船ディスカバリー号建造・出航の地として有名であり、現在そのディスカバリー号は修復され内部が見学できるようになっていました。

我々が今回の学会で発表してきたのは「半地下掘削構造道路の呼吸量解析」です。なんだかよく解からない題名ですが、簡単に言いますと天井が開いた半地下道路において半地下部分での排気ガスは開口部で新鮮空気と交換できているのかどうかを3次元数値流体解析で評価するものです。

近年の計算機における計算速度の向上から、流体工学研究室でも3次元数値流体解析の道路トンネル換気

分野への応用を研究しており、その手法として「自動車連続走行を模擬した道路トンネル内3次元数値流体解析手法」を確立、自動車が走行することによるトンネル内の空気の流れへの影響を3次元的に現象把握できるようになりました。今回の発表は、半地下道路にその手法を適用し、実際の現象を解明するものです。

投稿論文には私の名前も共著者にあり、本来であれば私が発表するところなのですが、流体工学研究室の修士の学生に国際学会での発表経験を積ませたいとの水野学長のご意向で、今回は流体工学研究室の修士2年の学生が発表いたしました。

会場には100名ほどの各国のエキスパートが、興味津々に注目しているという大変緊張する状況ではありましたが、セッションの座長の方が水野学長との旧知の間柄ということも助けとなり、また前日練習ではヘロヘロだった学生も腹をくくったのか本番では堂々と発表してくれました。発表後の質疑応答では水野学長の手

助けを仰ぎましたが、参加者の関心も高く活発な議論がなされ、発表は大成功のうちに終わりました。

学会2日目の夜には、シンポジウムディナーが開催され、国を問わず円卓を囲み、研究の話から四方山話まで、ディナーをいただきながら歓談しました。その余興では、水野学長が尺八を演奏され、大いに盛り上がりました。

トンネルをくぐってジェットファンを見たら、こんな研究をしている人もいるのだなと思っていただければ幸いです。



シンポジウムディナーの余興で尺八を演奏する水野学長

# カンボジアでの ボランティア活動

正木 信敬

profile

まさ き のぶ たか  
正 木 信 敬  
1941年2月23日生



学歴

1941年2月23日生  
1965年(昭和40年)

電気工学科電子工学コース 卒業

職歴

1965年 4月  
1981年10月  
2001年 3月  
2004年～2010年

東芝電気工事(株)入社  
日本電気システム建設(株)入社  
三田電気工業(株)入社  
カンボジアでボランティア活動

定年後、仕事をしたことのあるカンボジアでボランティア活動（教育支援）を行ってきました。

ポルポト時代から続いた内戦が終わり15年余り経っていますが荒廃した国土の復興が非常に遅れているように感じます。

日本の戦後15年と言うと昭和35年頃でかなり復興し発展したと記憶しています。

しかしカンボジアの復興が遅れているのはポルポト時代の影があるように思われます。ポルポト時代は密告によって処刑が繰り返されていました。そのため家族を含め隣人も信用することができず、その影響で一致団結という行動がとりにくく復興に少なからず影響を与えているのではないかと思います。

カンボジアは一次産業（農業）が主体の国ですが、雨季の川の氾濫で得た水によって田植えを行っているため気候に非常に左右されています。

気候的には3期作が可能だといわれていますが、水の確保が出来ないため1年に一回の収穫しか行っていません。

カンボジアの中央に位置するトネルサップ湖は琵琶湖の約3.5倍の面積があり、雨季にはその面積が5.6倍になります。淡水魚の捕獲高は世界2位です。（1位はアマゾン川）

トネルサップ川は湖から発し首都プノンペンでメコン川と合流しベトナムを通過して太平洋に流れますが、雨季になる

とメコン川の水位が上がりプノンペンから逆流してトネルサップ湖に流れ込み湖の面積が膨大な量になります。



学校建設依頼を受けた旧校舎



依頼を受けて建設した校舎（5教室）



開校式の式典 村の人はほとんどが参列する。



新しい校舎で学ぶ児童



夜間空いた教室を使って識字教育を受ける生徒  
自動車のバッテリーを使って蛍光灯をつけ学んでいる。



工学院大学ワンダーフォーゲル部の皆さんと開校式に参列し記念植樹を行った。マンゴの木で3年後には実を付ける。

学校建設は多くの国のボランティア団体が行っています。日本の教育支援を行っているボランティア団体は10前後あります。校舎は教室だけで電気、水道の設備はありません。別棟でトイレを作っています。

電気、水道を設備しても電気・水の使用料を支払うことができないために設備しないということです。トイレで使う水は池の水を汲んだり、雨水を貯めて使っています。標準は5教室ですが児童数によって教室数を増減します。ほとんどの学校は2部授業で少ない教室をやりくりしています。

日本と同じで6・3制で中学校までが義務教育ですが、15歳を超えた小学生も沢山います。1教室の建設費は約100万円位です。

地方では復興がまだまだ遅れておりまともな校舎も無く仮設小屋で学んでいる状況です。その仮設の学校も遠いため学校へ行かせる家庭も少なく教育が十分になされない現状です。

校舎が出来ると学校へ通わせる家庭も増え、学ぶ楽しさ、仲間と遊ぶ楽しさを味わい、いきいきとした児童の姿を見ると非常にうれしくなります。

教育のカリキュラムはありますが、教員に徹底されて

おらず現在でも学校による教育の差が見受けられます。特に音楽、図画、体育は教育カリキュラムには含まれていますが、教えられる先生が少なく教えていないのが現状です。

日本からピアノを持って行き使い方を教えますと児童はすぐに使い方を覚えます。先生が興味を持っているとどんどん曲を弾けるようになりますが、先生が興味ないとしまったままになっています。

国の発展のためには教育は必要不可欠と思ひ、一人でも多くの児童が学ぶことが国の発展に結びつくと思ひ教育支援を行ってきました。

又ポルポト時代に教育を受けられず読み書きが出来ない中年者が多く、その人たちを対象に識字教育も行っています。読み書きが出来るようになって生きがいを感じ、生きるのが楽しくなったと喜んでいます。

政治を良くするのは国民であり、一人でも多くの人が物事の善悪を判断する能力を持てる様にすることが必要であり、そのためには教育は必要と思ひこの活動を行っていますが、発展途上国にありがちな汚職、贈収賄が多くなかなか教育にお金が回ってゆかない状況です。

# 台所の移り変わりとともに建築士の道へ

西澤 千尋 (旧姓 三沢)  
湘南支部

profile

にし ぎわ ち ひろ  
西 澤 千 尋  
1933年4月5日生



**学歴**  
1952年3月 東京都立目黒高等学校卒業  
1957年3月 工学院大学専修学校建築科第129回卒業

**職歴**  
1952年～1957年 東京芝浦電気株式会社  
1957年～1975年 建築設計事務所勤務  
1981年 (有)吉良+Do デザイン研究室設立  
1964年 1級建築士取得

西澤 千尋

「あこがれのダイニングキッチン」の記事が目にとまった。

日本住宅公団で2DKの間取りに登場したのは、昭和31年4月でした。朝日新聞2011年6月25日夕刊「昭和史再探」の記事と写真を見た時、私の建築もここから始まったのだと感慨深い思いであった。前年の昭和30年4月に工学院大学専修学校建築科に入学した。

昭和27年3月新制高校を卒業、東京芝浦電気(株)に入社、3年が過ぎた。お茶汲み、事務用品の調達等、庶務の仕事は進歩がない。一般に男性は自分の仕事を選ぶのに、女性はその点どうなのかと怠けている気がして思い悩んでいた。先輩にトレースを学んでとは奨められた。学校を探していた折に、朝日新聞に工学院大学専修学校の夜間部学生募集の小さな記事を見つけた。夜学で高卒は無試験とは私にぴったりの条件であった。入学願書を取り、迷わず建築科に入学した。教室は昼間建築の職場で働いている苦学生で一杯だった。女子は故佐藤なみ子さんと二人だった。日曜日に測量実習をした。宿題の図面を遅く迄書いていた。建築の勉強は日々新しく充実した毎日だった。当時の129回卒業式のパンフによると、75名の内4番で優等賞をいただき卒業(卒業生名簿は成績順で工手学校の伝統)した。実は祖父が腕のいい宮大工だった事、九星は四緑木星で木との相性がいいと占い好きの大工に云われたこともある。

卒業後学校からの紹介で竹川建築事務所に入り、所長と二人で建物の登記や建築確認申請書の作成をした。その後設計事務所を転々として、二級を取り、一級建築士を取得した。鉛筆をナイフで削り、T定規と勾配定規で、のちにシャープペンシルとドラフター(製図板)で図面を引く事が毎日の仕事だった。木造住宅が多く、工務店からの設計依頼も多かった。それ迄板張りの床に座って作業



卒業名簿



春の運動会



校舎前



浄水場裏

日曜日は測量実習



宮沢賢治記念館  
(パンフレットより)



台所の移り変わりとともに建築士の道へ

西澤 千尋

をし、狭く薄暗いイメージの台所はDKとなり、システムキッチンが主婦のあこがれとなり清潔な明るい働きやすい場所になった。横浜駅東口地下街ポルタの現場で知り合った吉良裕信氏（東京造形大学、デザイン科室内建築卒）と1981年に（有）吉良+Doデザイン研究室を設立して今日に至っている。花巻の宮沢賢治記念館展示室の内装設計施工図の依頼が日展からあった。1982年9月開館し来年30周年になる。宮沢賢治とは戦時中小学生の時「風の又三郎」の映画を観て、子供心に不思議な思いをした記憶があり愛読している。施工図を書いたことは喜びだった。敷地内に建つ大谷石貼りの収蔵庫は、当時東京工業大学より講師として教鞭をとられ、現在も名古屋工業大学名誉教授として「湿気」の研究を続けて居られる宮野秋彦先生の指導で建てられた。後年この事を知り、弟子として嬉しかった。その後DKはLDKとなり、対面キッチンも取り入れられ広

いリビングルームとなった。（孫の新居）又食堂を独立させ接客にも使われている。（実家）焼肉は出来ないので外食しているようだ。

平成16年11月20日工学院大学校友会室で卒業生の集まりがあった。お兄さんのように若かった鈴木光夫、荒居宏、宮野秋彦諸先生に再会出来て懐かしく、大変嬉しく思った。

建築の道を歩んでこられた感謝と幸せを今も感じている。



前列左より2人目より 鈴木光夫、宮野秋彦（立席）、荒井宏の3先生を囲んでの同窓会

# 工学院大学校友会第17回全国大会 埼玉大会



・期日：2014年10月10日（金）（予定） ・場所：さいたま市

・テーマ：挑戦！！ チャレンジ！！ CHALLENGE！！ Un défi！！



グローバルな盆栽



川越祭



武蔵一宮 氷川神社

実行委員長 黒澤兵夫

## 居住地別人数 2012/1/26現在

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
北海道	88	74	91	143	10	49	455
青森県	45	45	50	48	2	47	237
岩手県	46	39	51	70	3	71	280
宮城県	57	36	68	82	4	49	296
秋田県	41	31	36	51	1	43	203
山形県	56	36	46	66	1	50	255
福島県	129	136	132	122	7	128	654

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
茨城県	377	286	350	354	32	322	1,721
栃木県	285	207	220	216	11	177	1,116
群馬県	265	206	241	230	20	114	1,076
埼玉県	1,939	1,522	2,030	1,722	867	1,893	9,973
千葉県	773	703	790	881	159	1,121	4,427
東京都	3,808	2,576	4,053	3,968	9,499	3,803	27,707
神奈川県	1,914	1,404	1,948	1,638	1,902	1,604	10,410

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
新潟県	212	146	184	201	15	145	903
富山県	124	96	106	124	1	31	482
石川県	93	46	72	66	1	18	296
福井県	29	23	31	28	1	16	128
山梨県	263	200	279	227	93	109	1,171
長野県	336	241	336	245	8	204	1,370
岐阜県	54	40	40	47	0	12	193
静岡県	586	445	460	409	17	201	2,118
愛知県	134	98	87	129	10	33	491
三重県	46	43	49	59	7	15	219

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
滋賀県	23	16	14	12	1	3	69
京都府	23	17	13	21	4	6	84
大阪府	48	47	63	57	7	21	243
兵庫県	38	58	66	63	2	18	245
奈良県	9	13	14	12	0	4	52
和歌山県	11	12	6	16	0	6	51

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
鳥取県	6	9	10	19	0	6	50
島根県	21	16	14	31	0	14	96
岡山県	42	23	25	39	1	18	148
広島県	110	60	100	109	0	19	398
山口県	56	26	26	34	0	15	157
徳島県	22	12	13	12	0	5	64
香川県	31	18	15	19	3	9	95
愛媛県	39	22	29	28	0	21	139
高知県	34	14	21	27	0	16	112

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
福岡県	58	46	59	97	2	21	283
佐賀県	13	8	19	19	2	5	66
長崎県	23	6	17	26	0	14	86
熊本県	13	12	14	23	0	19	81
大分県	30	25	32	31	0	23	141
宮崎県	29	19	27	33	0	17	125
鹿児島県	31	27	16	45	0	30	149
沖縄県	14	12	33	40	1	49	149

都道府県名	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
外国	3	0	8	2	0	0	13
在外施設	0	0	1	0	1	0	2

	機 械	応 化	電 気	建 築	高 校	専 門	合 計
合 計	12,427	9,197	12,405	11,941	12,695	10,614	69,279



★ 工学院大学校友会 第17回全国大会 埼玉大会

# 募金ニュース<校友会の皆様へ>

校友会募金委員会

## 1) 所得税の優遇措置が大幅強化

平成23年の税制改正で税額控除が導入され、寄付金から2千円を減じた金額の40%の所得税が軽減されるようになりました。従来の所得控除より軽減額が大幅に増加されました。詳細は大学ホームページ募金サイト等をご覧ください。同時に東京都の方は寄付金の4%弱、八王子市の方は寄付金の10%弱それぞれ個人住民税の減額措置も受けられます。

校友会の皆様にはこの新優遇税制を活用いただき、さらなる募金の積み上げをお願い申し上げます。

## 2) ATM, インターネットバンキングの利用開始

今までご利用いただけなかったATM, インターネットバンキングからも払込いただけるようになりました。銀行、郵便局のどちらかからでも可能です。口座番号は払込取扱票に記載されております。所定の払込手数料は掛かりますが、お忙しい方、金融機関が近くに無い方は是非ご利用下さい。お手続後は払込取扱票に所定の事項をご記入いただき、125周年記念事業事務室までお送り下さい。所得税の優遇措置を受けるための関係書類の送付、公表の可否等の確認のため必要ですので必ずお願いいたします。

## 3) 銘板作成

栄えある学園創立125周年記念事業にご参加いただいた証をお残し下さい。4万円以上ご寄付いただいた方のお名前を、この7月竣工予定の125周年記念総合教育棟のエントランスに設置する銘板に刻まさせていただきます。このような銘板作成の機会は25年後の150周年までありません。ご寄付の期間は平成25年3月末までございますので、この機会に、お一人でも多くの校友会の皆様のご参加をお待ちしております。

### 【校友会募金目標金額と平成23年12月31日現在の実績】

#### 【校友会および各同窓会実績】

	目標金額 (円)	実績金額 (円)	実績人数(人)	達成率 (%)
(同窓会分担額)				
1) 機械系同窓会	55,300,000	12,697,000	208	23.0
2) 応化会	41,100,000	8,784,000 (500,000)	126	21.4
3) 電気電子情報同窓会	53,900,000	19,629,000	161	36.4
4) 建築系学科同窓会	52,600,000	14,115,220	124	26.8
5) 附属高等学校同窓会	25,400,000	3,156,000 (700,000)	60	12.4
6) 専門学校同窓会	51,700,000	3,088,000 (1,000,000)	65	6.0
計	280,000,000	61,469,220	744	22.0
(団体扱い分担額)				
校友会	20,000,000	20,000,000		100.0
支部・その他		2,815,977	22	
合 計	300,000,000	84,285,197		28.1

注1: ( ) 内は同窓会の団体寄付分の内訳

注2: 支部・その他の内訳詳細は 鹿児島県支部20,000円 校友会有志(募金箱)4,175円 体育会連合OB会支部100,000円 ヨット部OB会100,000円 京滋支部50,000円 (株)特設計工学院大学OB会1,140,000円 校友会有志(H22総会出席者)61,868円 島根県支部100,000円空手道部OB会100,000円 (株)弘電社卒業生有志一同50,000円関電工支部100,000円東京支部125,000円湘南支部51,934円 ボクシング部OB会100,000円つのはづ37会有志13,000円 兵庫県支部300,000円山形県支部20,000円新潟県支部50,000円北海道支部100,000円大分県支部50,000円第30回同窓会有志一同30,000円五工会150,000円

### 【会員の所属都道府県別実績】

支部名	募金目標額 (円)	募金実績 (円)	実績人数	達成率 (%)	支部名	募金目標額 (円)	募金実績 (円)	実績人数	達成率 (%)
北海道	2,200,000	380,000 (100,000)	8	17.3	愛知	2,200,000	228,000	10	10.4
青森	1,100,000	40,000	1	3.6	三重	1,000,000	20,000	1	2.0
岩手	1,300,000	0	0	0.0	京滋	900,000	240,000 (50,000)	3	26.7
宮城	1,300,000	140,000	5	10.8	(奈良)				
秋田	900,000	0	0	0.0	大阪	1,100,000	1,027,000	5	93.4
山形	1,100,000	142,000 (20,000)	4	12.9	兵庫	1,200,000	390,000 (300,000)	4	32.5
福島	2,900,000	212,000	11	7.3	和歌山	200,000	0	0	0.0
茨城	7,500,000	240,000	13	3.2	鳥取	200,000	70,000	2	35.0
栃木	4,900,000	347,000	11	7.1	島根	500,000	112,000 (100,000)	2	22.4
群馬	4,800,000	135,000	5	2.8	岡山	700,000	0	0	0.0
埼玉	42,500,000	2,257,000	73	5.3	広島	1,700,000	420,000	12	24.7
千葉	19,800,000	2,338,000	54	11.8	山口	700,000	300,000	3	42.9
東京	100,350,000	35,706,220 (125,000)	315	35.6	徳島	300,000	0	0	0.0
川崎	5,500,000	955,000	18	17.4	香川	500,000	0	0	0.0
横浜	12,700,000	1,871,000	28	14.7	愛媛	600,000	0	0	0.0
湘南	6,600,000	1,421,934 (51,934)	33	21.5	高知	500,000	30,000	2	6.0
相模	13,400,000	8,153,000	35	60.8	福岡	1,200,000	100,000	5	8.3
西湘	4,000,000	471,000	14	11.8	佐賀	300,000	20,000	1	6.7
新潟	4,100,000	600,000 (50,000)	14	14.6	長崎	400,000	0	0	0.0
富山	2,200,000	0	0	0.0	熊本	400,000	20,000	1	5.0
石川	1,400,000	15,000	2	1.1	大分	600,000	100,000 (50,000)	5	16.7
福井	600,000	40,000	3	6.7	宮崎	600,000	0	0	0.0
山梨	4,900,000	75,000	4	1.5	鹿児島	700,000	40,000 (20,000)	5	5.7
長野	6,200,000	270,000	7	4.4	沖縄	700,000	62,000	4	8.9
岐阜	900,000	125,000	1	13.9	外国	50,000	60,000	2	120.0
静岡	9,600,000	903,000	22	9.4	都道府県別 (計)	280,000,000	60,076,154	744	21.5

注3: ( ) 内は団体扱分

# 工学院大学 校友子女特別選抜入学試験を実施します！

工学院大学では入学を希望される校友の皆様の子を対象にした特別選抜試験を2008年度から実施しています。

工学院大学校友会では、校友の皆さまの技術者への志、120年を超えて技術者を育成してきた学園の建学の精神が、この選抜試験により次の世代にまで継承されることを大いに期待しております。

概要、過年度の入試結果は次のとおりですが、詳細につきましては必ず工学院大学アドミッションセンター発行の募集要項（9月上旬から配付、無料）をご確認ください。

## 出願資格

次の要件をすべて満たしている方

- ①高等学校もしくは中等教育学校後期課程を卒業した方および2013年3月卒業見込みの方、又は高等学校を卒業した方と同等以上の学力があると認められた方。
- ②本学園（大学・大学院・高等学校・中学校・専門学校およびこれらの前身の学校を含む）卒業生・修了生の子、孫、甥、姪。
- ③高等学校もしくは中等教育学校後期課程の全体の評定平均値が3.2以上の方。

## 共通事項

### 校友子女特別選抜・校友教諭在職高校特別推薦入試結果

学 科	募集人数	校友子女				校友教諭在職高校				
		2011年度		2012年度		2011年度		2012年度		
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	
工学部 第1部	機械工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	
	機械システム工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	
	応用化学科	0	0	0	0	0	0	0	0	
	環境エネルギー化学科	2	2	0	0	0	0	0	0	
	電気システム工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	
	情報通信工学科	0	0	1	1	0	0	0	0	
工学部 第2部	情報通信メディア工学科	—	—	—	—	0	0	0	0	
	建築学科	—	—	—	—	0	0	0	0	
建築学部	建築学部総合 (まちづくり学科) (建築学科) (建築デザイン学科)	2	2	4	4	1	1	0	0	
	情報学部	コンピュータ科学科	5	3	1	1	0	0	1	0
		情報デザイン学科	1	1	1	1	0	0	1	0
グローバルエンジニアリング学部	機械創造工学科	0	0	0	0	0	0	0	0	

\*注) 建築学部（まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科）は、3年次に学科を選ぶ「建築学部総合」での募集となります。  
校友教諭在職高校特別推薦は、工学部第2部でも実施しています。

### 選考方法

書類審査、面接、基礎学力調査（数学、英語）  
建築学部のみ、デッサン、小論文も選択可能

選考日：11月10日（土）

選考場所：工学院大学新宿キャンパス

合格発表：11月17日（土） 郵送で通知します。

### 試験日程

出願期間：【郵 送】10月22日（月）～10月31日（水）  
消印有効

【窓口※】10月22日（月）～11月1日（木）

※新宿キャンパス11階 アドミッションセンターで受付けます。

### — 問合せ・試験要項請求先 —

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

工学院大学 アドミッションセンター

TEL：03-3340-0130 FAX：03-3340-2440

ホームページ：http://www.kogakuin.ac.jp

## 工学院大学 校友教諭在職高校特別推薦入学試験を実施します！

工学院大学では、2009年度入試から校友教諭在職高校特別推薦入学試験を実施しています。これは、工学院大学を卒業または修了された校友が教諭として勤められている高等学校に、これまでの指定校推薦などとは別に推薦枠を設ける特別推薦入試です。

工学院大学校友会では、校友の皆様を通じたこの推薦試験により、学園の建学の精神に共感した意欲あふれる生徒の皆さんが入学されることを大いに期待しております。

本試験の概要は次のとおりですが、ご関心のある校友の先生は是非とも、工学院大学アドミッションセンターまでご連絡ください。

### 推薦対象高校

工学院大学を卒業または修了後、5年以上経過した方が本特別推薦入試出願時に専任教諭（以下「校友教諭」と言います。'教職歴5年以上'ではありません。）として在職している高等学校を対象とします。

### 推薦人数枠

1 高等学校あたり2名までとします。出願には当該高等学校校長の推薦を必要とします。

### 推薦基準点

推薦基準点は設けません。

### 出願までの流れ

- 1) 本入学試験の詳細問い合わせ  
(校友教諭 ⇒ アドミッションセンター)
- 2) 募集要項送付 9月上旬  
(アドミッションセンター ⇒ 校友教諭)

### 3) 出願

(受験者 ⇒ アドミッションセンター)

### 出願資格

次の要件をすべて満たしている方

- ① 高等学校もしくは中等教育学校後期課程を2013年3月卒業見込みの方。
- ② 工学院大学を卒業または修了後5年以上経過し、現在当該校に在職している専任教諭から、人物、学力とも優れていると認められた方。
- ③ 当該学校長から推薦を受けた方。
- ④ 本学の教育目的を充分理解した上、本学で学ぶことを強く希望する方。

## 教員をなさっている卒業生・修了生の皆様、情報をお寄せください。

工学院大学教職課程からのお願い

皆様ご存知のとおり2009年度から教員免許更新制が実施されることになりました。それに伴い、本学でも更新講習の開催準備をしております。詳細については改めて御案内いたしますが、卒業生・修了生の皆様にはぜひ本学での更新講習を受講いただくようお願い申し上げます。

この機会に本学卒業生・修了生で教員をされている皆様のネットワークを作りたいと存じます。卒業生・修了生で教員をされている皆様、学校種（小、中、高、特別支援等）や採用形態（常勤・非常勤等）にかかわらず、次の事項をお知らせくださるようお願い申し上げます。また友人、先輩、同僚など同窓生で教員をされている方をご存じの場合も合わせてお知らせ下さい。

1) お名前、2) 卒業学科（修了課程）、3) 卒業（修了）

年月、4) 取得免許状、5) 勤務校、6) 担当教科、7) 役職、8) 資料等送付先（自宅住所または勤務先所在地）、9) 電話番号、10) FAX 番号、11) メールアドレス

連絡は、郵便、FAX、メールのいずれでもけっこうです。提供いただいた情報は教職課程として責任を持って管理し、大学としての資料送付と連絡のみ利用し、それ以外での利用をしません。

※今後、教員になる予定の方のご連絡もお待ちしております。

<連絡先> 〒163-8677

東京都新宿区西新宿 1-24-2

工学院大学教員免許状更新講習担当（宇治原）

電話：03-3340-0947 FAX：03-3342-5304

e-mail：jimu-koshin@kogakuin.ac.jp

# 各部会の平成23年度活動報告

## 総務部

- 平成23年度校友会評議員会・総会の開催  
評議員会総会は例年通り5月の最終日曜日(5月29日)開催致しました。今年は、長年の課題であった長時間拘束の抜本改革の試みとして学術講演会を分離独立して開催をいたしました。その結果大幅な時間短縮となり目標の時間内に全てを終了することが出来ました。総会も本来の姿である審議の充実を図ることも皆さんのご理解とご協力で目的を達成出来ました。一方分離独立して工学院大学エクステンションセンターとの共催で開催をした学術講演会は本校宮下・南雲両教授による「有機合成におけるクロスカップリングと私…2010年ノーベル化学賞に寄せて」と題して6月25日(土)新宿キャンパス・アーバンテックホールで開催を致しました。校友88名の参加とやや寂しい参加者の講演会となりましたが、化学系の現役学生20名の参加もあり有意義なものとなりました。講演後に開催した懇親会、講演テーマや集客体制等費用対効果にも課題を残す結果となりました。
- 常任理事会・理事会の開催  
常任理事会12回、理事会8回、総務部会3回を実施致しました。今年度の特筆すべき事は3月11日に発生した東日本震災に関連した対応です。10月8日開催予定で進めてきた第17回全国大会・埼玉大会の延期致しました。翌年の学園創立125周年記念行事等を勘案し3年後の2014年開催と致しました。一般社団法人への移行準備最終年としての活動は移行準備委員会の分科会活動を終了致しました。



部長  
福田 忠彦



副部長  
大津 幹太郎



副部長  
飯塚 辰典

- 一般社団法人への移行準備  
前年度から継続して分科会活動を行い定款をはじめとする関連諸規則の議論と成文化の作業を実施致しました。この間、全国法人協会4回、内閣府3回、文科省等との協議を進め11月25日の理事会では、定款、代議員選出規則、支部設立に関する規則、支部運営規則のご承認を頂き、続いて関連規則の作成、改定を行い12月9日の理事会では理事選出規則、監事選出規則、会長、副会長選出規則の承認、続いて2月23日の理事会で予定した残り9規則、即ち、社員総会運営規則、職務権限規則(含職務権限表)、会計規則、事務局運営規則、選挙管理委員会規則、理事会運営規則、支部運営規則、同窓会設立に関する規則、同窓会運営規則、の承認を頂いております。

メンバー 福田忠彦、大津幹太郎、飯塚辰典、岩田秀明、横田 仁、久禮和彦、島林正美、関谷真一、安宅長信、山川義則

## 財務部

- 平成22年度取支決算処理及び平成23年度予算(案)をまとめ、5月の評議員会・総会で報告した。  
・特に問題なく、承認された。
- 校友会会計処理チェックと残高確認の実施。(校友会の財産管理)  
・会計処理チェックマニュアルを改訂して、四半期ごとに4回実施した。
- 校友会監事による単体同窓会の会計監査(平成22年度)を支援した。  
・機械系、応化会・・・8月23日に実施した。  
・電気電子情報、建築系学科・・・8月29日に実施した。  
・附属高等学校、専門学校・・・8月30日に実施した。  
・例年通りの内容で実施し、特に問題はなかった。
- 維持協力会費の増収を支援した。  
・同窓会別維持協力会費実績表を3ヶ月単位(6月、9月、12月末)で集計し、関係部門へ会費納入の協力を要請した。
- 新会計ソフトの更新と財務関係書類の変更。  
・現行の会計ソフトを“平成20年施行 公益法人会計基準対応”の新バージョンに更新した。  
・一般社団法人移行に伴い決算書等の財務関係書類を更



部長  
並木 光雄



副部長  
小沢 和重

- 一般社団法人移行に伴う会計関連の検討。  
・定款、会計規則及び校友会資産(正味財産)の扱い等の会計関連について検討し、移行委員会へ報告した。
- 平成24年度の予算(案)の作成。  
・一般社団法人移行に伴う事業目的(計画)と予算の見直しをして、予算(案)を作成し理事会へ提案した。  
・事業活動の円滑な運営のため、各部門へ活動予算に対する活動目標と目標達成のための行動計画の作成を依頼し、結果と評価、次年度への反映を行ってもらう仕組み(PDCA方式)の検討を行った。

メンバー 並木光雄、小沢和重、浅見利夫、和田欣也、田中久弥、田中正裕、小林保男、西原康二、相澤良夫

## 企画・広報部門

### ■平成23年度活動報告

企画・広報部会の役割は、校友会報の発刊と校友会ホームページの維持運営が主な活動内容で月1回のペースで部会を開いている。それぞれ、分野毎に複数の理事がペアで当たるように回り、負担の軽減を図っている。任期の三年目にあたり、当部会では各理事が動き易い環境の整備と分野毎の作業を所属全理事の共有情報とし、理事相互が支援し合える体制を意識して進めている。

Vol.132では、学園が125周年を迎えるにあたり、永い歴史の中での卒業生の活躍を紹介した内容の充実に加え、誌面のカラー化、会報表紙のコンペ募集、広告掲載(OBの活躍企業紹介)等に取り組み実績として66,800部を、会員及び学生に配布することが出来た。毎年総会時に会報の内容を確認・反省する意味で、会報のアンケート調査を実施して、概ね及第点の評価を頂いている。その結果を受けて、次号Vol.133へ企画を継承することにして、会報編集作業を進めて来た。

本年は新たに「校友会の葉」の作成に取り組み、常任理事会の意見を取り入れながら善い物を作る可く作業を進めて来た。

「校友会の葉」は広く「校友会を知って頂く宣材」として、利用して頂きたいと希い、学園及び校友会、同窓会や地域



部長  
三宅 捷夫



副部長  
佐久間 惣喜

- 支部の諸行事の際に配布、活用して頂きたい。
- 活動方針と目標
- 企画・広報部会では、タイムリーなホームページの改訂と情報ネットの運用と維持、及び校友会々報の更なる充実を図ること。また、各単体同窓会や全国各支部と連携を取り乍ら、校友会々員へ諸々の情報提供を図ることを目的に活動を行う。
- 一年次:理事相互の支援体制の構築と実施を課題とする。  
二年次:分野における課題の効果と改善を図る。  
三年次:実施効果の確認と改善による変化(効果)の確認を行う。

■各分野の活動

- 1) 企画分野: 部会外からの校友の意見、要望などの企画、調整を行う。  
学園、校友会本部・支部、各単体同窓会、各理事会との調整を行う。
- 2) 広報分野: 広報作業における課題の抽出と改善を討議する。  
ホームページと情報ネットの維持、保守のシステム確認を行う。
- 3) 編集分野: 会報等の編集における課題の抽出と改善を

- 討議する。  
学園、校友会本部、単体同窓会との連携を維持、強化する。
- 4) 広告収集: 広告募集における課題の抽出と改善を討議する。  
広告の顧客、紹介、斡旋、集金等のシステムの再確認を行う。
- 各支部長及び支部の各位には、企画・広報部に対して更なるご支援とご協力をお願いしたい。

企画広報部会 理事メンバー 三宅捷夫、佐久間惣喜、田村久義、吉川重克、名取勝敏、大場光博、鈴木敏彦、木本勝正、佐藤敏勝

## 組織・事業部

■平成 23 年度組織・事業部活動計画

1. 部会: 年間 7 回の開催日を決定。初年度に決めた案件を PDCA でまわす。
2. 支部活性化: 企業支部設立。休眠支部の再開。論文博士取得者及び特別教職課程修了者のメンバー化の検討。
3. 支部総会: 校友会活動報告を中心に学園トピックスを報告。125 周年記念事業への募金のお願い、校友子女特別選抜、第 17 回全国 (埼玉) 大会等の説明をする。
4. 全国支部長会開催: 審議事項「第 17 回全国 (埼玉) 大会の支援」  
「校友会の一般社団法人への移行と支部の位置付けについて」
5. 第 17 回全国 (埼玉) 大会: 埼玉実行委員会と準備をする。
6. 大学後援会との連携: 学園連携部とともに実施。
7. 「新春の集い 2012」: 前年の校友参加人数 308 名を上回ることを。

■活動報告 (上の項目に対応しております)

1. 予定の部会を実施し案件処理をした。中でも全国支部長会の準備では、座長・副座長・書記のお願いをしている渡辺静雄体育会連合 OB 会支部長、池田誠一長野県支部長、森薫高知県支部長には来校願ひ打ち合わせを行った。
2. 企業支部は、三和シャッター工業 (株) 支部が立ち上がった。また 1700 名強の校友がいる茨城県支部再結成の準備が出来た。



部長  
来住 康弘



副部長  
谷 政美

- 論文博士取得者及び特別教職課程修了者のメンバー化の検討が残っている。
3. 前年に続き、一般社団法人へ移行するに伴う支部の位置付け問題があるので、積極的に参加し、説明をした。
  4. 11 月 2 日、全国から 42 名 (+ オブザーバー 3 名 + 本部 24 名の合計 69 名) の支部長が参加し、継続テーマの「校友会の一般社団法人への移行と支部の位置付けについて」討議をした。議事録は関係各位に配布済み。全国大会は延期となったため省いた。
  5. 東日本大震災のため、第 17 回全国 (埼玉) 大会の延期を決定した。
  6. 学園連携部単独で対応する事となった。
  7. 校友参加者 353 名と目標達成した。更なる参加者増を図るため、若手校友が参加し易い環境を作る。

メンバー 来住康弘、谷 政美、南 弘、唐鎌貞郎、菊地 正、白井精滋、加藤隆弘、岡安 彰、小口俊明、小倉将宏、大越政志

## 学園連携部

<平成 24 年度の主な事業計画>

活動の特徴である、ホームカミングデーは、学園 125 周年記念行事と重複するため、平成 24 年度の開催はありません。(学園確認済事項)

- 従って、下記の内容を推進してゆきます。
1. 校友子女特別入試の案内 (校友会会報に掲載)
  2. 学生生徒援助
    - 2.1 新宿祭、八王子祭、夢工房等
    - 2.2 各学生生徒のプロジェクト支援
  3. 優秀学生生徒の奨励と表彰
  4. 学園、大学後援会との連携
  5. 卒業生バックアップセンターの充実

<平成 23 年度活動報告>

1. 校友子女特別入試案内とその結果  
従来の案内方法として会員の年代別に別途案内書を印刷して郵送していましたが、費用対効果を考慮し、平成 23 年度から、校友会会報に案内を掲載し、会員の皆様に配布しました。その結果、6 名の方が応募され、推薦入学することになりました。
2. 学生生徒奨励  
この事業は、従来、校友会の組織事業部が担当していましたが、平成 23 年度からは、学園連携部が担当することになりました。  
表彰学生は 25 名を数え、校友会総会時に学園より推薦された学生を表彰いたしました。  
内訳は、中学校 2 名、高等学校 3 名、大学および院生 20 名です。
3. 学生生徒援助 (支援)
  - 3.1 新宿祭、八王子祭、夢工房に援助金として支援しました。
  - 3.2 学生生徒のプロジェクトに援助金として支援しました。
  - 3.3 英語弁論大会への支援金
4. 第 11 回ホームカミングデー運営委員会参画



部長  
佐藤 浩安



副部長  
渡辺 征三

- 学園主催のホームカミングデー開催にあたり、学園と校友会の学園連携部が定期的に、運営委員会と云う形で、6 回の会合を持ち、平成 23 年度は 11 月 3 日に開催しました。今回は若い年代層と各学科研究室の先生のご協力および東日本震災による経済低迷を払拭させる催しを検討し、案内を致しました結果、300 人強の参加者があり、過去、最多の参加者でした。  
平成 24 年度は、学園 125 周年記念の行事と重複するため取り止め、次回開催は平成 25 年度になります。
5. 卒業生バックアップセンターの充実を計る  
この企画は、平成 22 年 5 月 31 日に、会員の皆様との情報交換や伝達等の効率化を計る目的で、新規に開設した校友連携のシステムです。  
開設して 2 年弱になりますが、幾多の問題点があり、会員の皆様方の、加入件数は 1 月末で 808 名しか加入が出来ておりません。  
まだまだ、PR が不足していることと、加入手続きの複雑さや、加入するメリット等の要因が加入者数の増加低迷に影響を与えております。  
担当部署として、本年 4 月を基点として、2 年間で、会員数を 2000 名以上にしてゆきますので、未加入の会員の皆様、是非、加入ご支援を御願ひ申し上げます。

担当理事 佐藤浩安、渡辺征三、近藤 智、遊馬靖美、鷹野一朗、後藤敏明、住野和男、坂口教子

# 校友会事務局からのお知らせ・お願い

◆「卒業生バックアップセンター」が平成22年4月から開設されております。これは、工学院大学の卒業生だけが利用できる高性能なWebサイトです。卒業生限定の転職情報が見られる「キャリアアップ」や同窓生を検索できる「コミュニティ」など暮らしを彩る、色々な機能が充実しています。転職活動や技術交流、懐かしの同じ研究室や同窓生との連絡・交流に是非とも活用下さい。まだ、未登録の会員の方は、校友会報2～4ページに登録方法を分かり易く紹介しておりますのでご覧の上登録して下さい。何か不明の点がありましたら校友会事務局までお問い合わせ下さい。

## ◆維持協力会費納入のお願い

在学中に納入していただいている終身会費だけでは校友会の運営が難しくなっております。工学院大学校友会としては、学園に対して今まで以上の支援を考えております。平成23年度の維持協力会費の実績は、610名の方々からのご協力をいただき2,300千円の実績となっておりますが、皆様方の更なるご協力をよろしくお願いいたします。

## ◆E-mail アドレスをお持ちの方は是非お届け下さい

平成14年3月から会員に対してE-mailによる情報ネット発信態勢の構築に取り掛かっており、現在、3700名の登録があります。定期的に学園や校友会の情報を発信しておりますのでE-mailアドレスをお持ちの方(携帯電話は不可)、一度お届け後変更された方は同封の総会出席通知にご記入の上、投函下さいますようお願いいたします。なお、既に情報を受け取られている方は再登録の必要はありません。

## ◆工学院大学校友会 STEC VISA カードのご案内

工学院大学校友会 STEC VISA カードは、

1. 工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがお持ちいただけるエンブレムカードです。(工学院大学校友会と三井住友カード(株)が提携発行する公認カードです)
2. 会員の方がこのカードをお使いになると、その利用額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社から校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は一切負担となることはありませんので申し込み希望の方は同封の総会委員状の連絡欄に○印をつけてご返送下さい。この件のお問い合わせは校友会事務局までお願いいたします。

## 受賞

次の方々を受賞の栄誉を受けられました。おめでとうございます。

河本 洋次氏 旭日小綬章を受章 平成22年の叙勲で河本洋次氏(昭和35年大学電気工学科卒)が受章の栄誉を受けられました。

大柳 康氏 瑞宝小綬章を受章 平成22年の褒章で大柳康氏(昭和22年機械工学科卒)が受章の栄誉を受けられました。

高橋 庫治氏 旭日雙光章を受章 平成23年の褒章で高橋庫治氏(昭和34高校・昭和38年大学建築学科卒)が旭日雙光章の栄誉を受けられました。

## 訃報

次の方々をご逝去されました。ご生前のご活躍を偲び謹んでご冥福をお祈りいたします。

元校友会会長

足立 剛一氏 平成23年 4月12日 ご逝去

元校友会理事

芳賀 栄高氏 平成23年 6月19日 ご逝去

元校友会監事・元常任理事

石成 和男氏 平成23年 7月 8日 ご逝去

元校友会理事

西山 徹氏 平成23年 9月 5日 ご逝去

校友会理事・前千葉県支部長

安宅 長信氏 平成23年10月 5日 ご逝去

校友会理事

小倉 将宏氏 平成23年11月23日 ご逝去

石川県支部長

野口 嘉與氏 平成23年11月24日 ご逝去

長野県支部副支部長

保科 憲生氏 平成23年12月 1日 ご逝去

工学院大学名誉教授・名誉会員 大柳 康氏

工学院大学名誉教授であり、校友会の理事、常任理事を歴任し、名誉会員として長いこと校友会活動にご尽力いただいた大柳康氏が1月29日に逝去されました。氏は、穏やかな人柄で多くの校友に慕われ、さらに学究の場でも業績を上げられて、平成22年には瑞宝小綬章を受章されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



前台湾支部長 劉 維隆氏

多くの校友から親しまれていた劉さんは、2月20日に90歳の生涯を終えました。日本をこよなく愛し、台湾においても日本のテレビ番組しか見ないというのが口癖でした。「校友会全国大会」や「新年祝賀会」には台湾から奥様と同伴で度々出席されており、日本人以上に日本人らしい先輩であったことが懐かしく思い出されます。謹んでご冥福をお祈りいたします。



## ◆校友会のホームページを開いて見て下さい。

校友会のホームページは、各種の行事案内と報告、会員に関係のあるトピックスなど情報満載です。全国大会や総会・新年会の写真もたくさん掲載されておりますので、ぜひご覧下さい。事務局の休業日等も掲載されており、ご来校の予定の前にはご確認頂くこともできます。

校友会HP URL : <http://www.kogakuin.or.jp> 会員のページ2のパスワード

TEL 03-3342-2064・03-3340-1649 FAX 03-3342-2035 E-mail jimukyoku@kogakuin.or.jp

## 「第 67 回評議員会・第 56 回総会」開催のお知らせ

1. 日 時 平成 24 年 5 月 27 日 (日) 13:00 ～
2. 場 所 新宿キャンパス 3 階「アーバンテックホール」
3. 議 案 第 1 号議案 平成 23 年度事業報告承認の件  
           第 2 号議案 平成 23 年度収支決算ならびに財産目録承認の件 監査報告  
           第 3 号議案 平成 24 年度事業計画 (案) 承認の件  
           第 4 号議案 平成 24 年度収支予算 (案) 承認の件  
           第 5 号議案 一般社団法人定款 (案) 承認の件
4. 報告事項 一般社団法人移行に伴う規則の件、学園創立 125 周年記念事業募金の件、青森県支部問題、他  
           (注 1) 本誌同封封書により、折り返し出欠についてご回答下さい。封書は 80 円切手をお貼り下さい。  
           (注 2) 定款施行細則により、当該議事について意思表示のない場合は同意の意思があったと見なして出席者に加えることが出来ることになっておりますのでこの点予めご了承下さい。  
           (注 3) 評議員会・総会で意見のある方は事前に事務局まで FAX03-3342-2035 にてご意見をお寄せ下さい。

### 「総会当日のプログラム」

- |  |   |
|--|---|
| <p>◆ 評議員会・総会</p> <p>  受付 ● 12:30 ～</p> <p>  開会 ● 13:00</p> <p>  議事 ● 13:15 ～</p> | <p>◆ 学園近況報告・学生、生徒の表彰式</p> <p>          ● 15:00 ～</p> <p>◆ 懇親会 (於 食堂)</p> <p>          ● 16:15 ～</p> |
|--|---|

### ◆ 学術講演会について

学術講演会は、総会時には開催せず別途開催いたします。開催の詳細については、決定次第校友会のホームページでお知らせいたします。

## 学生・生徒の表彰報告 (平成 23 年度総会において)

大学院	専 攻	氏 名	工学部 1 部	情報通信工学科 3 年	伊藤 一喜
	機械工学専攻 2 年	宮城 貴則	情報学部	コンピュータ科学科 3 年	坂本真貴人
	化学応用学専攻 2 年	遠山 武志	情報学部	情報デザイン学科 4 年	押味重紀穂
	電気・電子工学専攻 1 年	山田 将也	工学部 1 部	建築系学科 2 年	伊藤 眞子
	情報学専攻 1 年	坏 奈緒美	工学部 1 部	建築系学科 2 年	風間 貴臣
	建築学専攻 2 年	加藤木辰徳	工学部 1 部	建築系学科 2 年	和田 裕希
			工学部 2 部	建築学科 2 年	中野 蔵人
大 学	専 攻	氏 名	工学部 1 部	情報通信工学科 3 年	伊藤 一喜
工学部 1 部	機械工学科 2 年	渋谷 佳臣	情報学部	コンピュータ科学科 3 年	坂本真貴人
工学部 1 部	機械システム工学科 2 年	近藤 一成	情報学部	情報デザイン学科 4 年	押味重紀穂
工学部 1 部	機械システム工学科 2 年	高野 和彦	工学部 1 部	建築系学科 2 年	伊藤 眞子
GE 学部	機械創造工学科 2 年	横澤 良祐	工学部 1 部	建築系学科 2 年	風間 貴臣
工学部 1 部	応用化学科 3 年	内藤美菜子	工学部 1 部	建築系学科 2 年	和田 裕希
工学部 1 部	環境エネルギー化学科 2 年	稲垣 貴史	工学部 2 部	建築学科 2 年	中野 蔵人
工学部 1 部	環境エネルギー化学科 2 年	高橋 佳子	工学部 1 部	情報通信工学科 3 年	伊藤 一喜
工学部 1 部	電気システム工学科 4 年	中嶋 拓未	情報学部	コンピュータ科学科 3 年	坂本真貴人
附属高等学校	学 年	氏 名			
	中高一貫コース 3 年	古田麻依子			
	文理特進コース 3 年	田中 豪			
	普通コース 2 年	小川 翔平			
附属中学校	学 年	氏 名			
	3 年	粕谷 祐貴			
	2 年	石橋 樹			

## 第1号案

### 平成23年度事業報告

平成23年度において下記の事業を行いました。

事業に関する定款条文	事業内容
1. 学校の教育施設に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園援助費寄付
2. 学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生・生徒の研修援助 ① 優秀学生の表彰 ② 学生の研修活動に対する援助・支援
3. 会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会報132号の発行 2. 会員名簿の更新・住所ラベル等の発行
4. 学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会開催(総会開催時) 2. 各支部単位での見学会の開催
5. 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新春の集い・懇親会の開催 2. 評議員会・総会後の懇親会の開催 3. 各支部の支援および支部組織の活性化 4. 各種同好会活動の支援 5. 各支部総会・懇親会の開催(40支部 723人) 6. 学園支援へ向けた活動の実施 7. 第11回ホームカミングデー開催への積極的な後援 8. 第17回校友会全国大会(埼玉大会)開催準備 9. 学園が行なう社会活動への援助・支援
6. 学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職の支援 2. 後援会との連携強化
7. その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学園創立125周年記念事業への積極的支援 2. 「卒業生バックアップセンター」の開設・運用開始 3. 一般社団法人への移行に伴う定款・細則の改定案検討

## 第3号案

### 平成24年度事業計画(案)

平成24年度において下記の通り事業を行います。

事業に関する定款条文	事業内容
1. 学校の教育施設に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園援助費寄付
2. 学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生・生徒の研修援助 ① 優秀学生の表彰 ② 学生の研修活動に対する援助・支援
3. 会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会報133号の発行 2. 会員名簿の更新・住所ラベル等の発行
4. 学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会開催 2. 各支部単位での見学会の開催
5. 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新春の集い・懇親会の開催 2. 評議員会・総会後の懇親会の開催 3. 各支部の支援および支部組織の活性化 4. 各種同好会活動の支援 5. 各支部総会・懇親会の開催 6. 学園支援へ向けた活動の実施 7. 第17回校友会埼玉全国大会開催準備(平成26年に開催) 8. 学園が行なう社会活動への援助・支援
6. 学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職の支援 2. 後援会との連携強化
7. その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学園創立125周年記念事業への積極的支援 2. 「卒業生バックアップセンター」会員加入の促進 3. 一般社団法人への移行

## 第2号案

### 平成23年度収支計算書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

(単位:円 △印は予算超過金額)

科目	予算額	決算額	差異
<b>【収入の部】</b>			
<b>基本財産運用収入</b>	120,000	120,000	0
基本財産運用収入	120,000	120,000	0
<b>会費収入</b>	32,320,000	54,051,000	△ 21,731,000
会費収入	32,320,000	54,051,000	△ 21,731,000
<b>協力会費収入</b>	3,000,000	2,348,000	652,000
協力会費収入	3,000,000	2,348,000	652,000
<b>寄付金収入</b>	150,000	146,000	4,000
寄付金収入	150,000	146,000	4,000
<b>雑収入</b>	1,500,000	1,772,090	△ 272,090
受取利息・配当	80,000	146,915	△ 66,915
雑収入	1,420,000	1,625,175	△ 205,175
<b>特定預金取崩収入</b>	7,015,000	0	7,015,000
長期預金取崩収入	7,015,000	0	7,015,000
当期収入合計(A)	44,105,000	58,437,090	△ 14,332,090
前期繰越収支差額	15,878,427	15,878,427	0
<b>収入合計(B)</b>	59,983,427	74,315,517	△ 14,332,090
<b>【支出の部】</b>			
<b>事業費</b>	26,860,000	23,360,137	3,499,863
学園援助費	2,400,000	1,557,720	842,280
学生生徒活動援助費	3,000,000	2,562,800	437,200
学生生徒奨励金	1,220,000	1,211,000	9,000
会報印刷費	3,750,000	3,596,500	153,500
発送作業費	470,000	428,793	41,207
郵送費	4,100,000	4,018,689	81,311
印刷費	1,900,000	1,494,940	405,060
協会会費割戻金	650,000	600,300	49,700
支部出張費	1,500,000	1,485,673	14,327
支部総会費	150,000	149,000	1,000
給与手当	4,550,000	5,298,147	△ 748,147
福利厚生費	130,000	92,819	37,181
全国大会費	1,500,000	△ 806,218	2,306,218
新年懇親会費	1,250,000	1,543,634	△ 293,634
校友ネットワーク構築費	240,000	126,340	113,660
消耗雑費	50,000	0	50,000
<b>管理費</b>	14,095,000	12,666,350	1,428,650
総会費	1,250,000	1,249,298	702
本部会議費	2,075,000	1,903,403	171,597
全国支部長会費	1,250,000	1,307,789	△ 57,789
給与手当	5,000,000	4,439,822	560,178
福利厚生費	600,000	587,986	12,014
旅費・交通費	50,000	7,680	42,320
通信費	1,160,000	919,328	240,672
振替手数料	120,000	90,660	29,340
事務用品費	510,000	471,430	38,570
印刷製本費	50,000	73,500	△ 23,500
修繕費	50,000	0	50,000
賃借費	280,000	277,200	2,800
業務委託費	1,100,000	670,256	429,744
慶弔費	150,000	242,367	△ 92,367
公租公課	50,000	33,850	16,150
雑費	400,000	391,781	8,219
<b>固定資産取得支出</b>	150,000	96,802	53,198
資産取得支出	150,000	96,802	53,198
<b>予備費</b>	3,000,000	.....	3,000,000
当期支出合計(C)	44,105,000	36,123,289	7,981,711
当期支出差額(A)-(C)	0	22,313,801	△ 22,313,801
次期繰越収支差額(B)-(C)	15,878,427	38,192,228	△ 22,313,801

## 第4号案

### 平成24年度収支予算書(案)

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(単位:千円 △印は前年度より減を示す)

科目	予算額	前年度予算額	増減
<b>【収入の部】</b>	42,925	44,105	△ 1,180
基本財産利息収入	120	120	0
会費収入(6同窓会)	31,440	32,320	△ 880
協会会費収入	2,500	3,000	△ 500
寄付金収入	150	150	0
雑収入	1,700	1,500	200
学園援助基金取崩収入	7,015	7,015	0
当期収入合計	42,925	44,105	△ 1,180
前期繰越収支差額	38,192	15,878	22,314
収入合計	81,117	59,983	21,134
<b>事業費</b>	55,700	26,860	28,840
学園援助費	25,100	2,400	22,700
学生生徒活動援助費	2,350	3,000	△ 650
学生生徒奨励金	1,265	1,220	45
学園連携活動費	450	0	450
会報・出版費	8,340	8,320	20
会報印刷費・取材費	3,770	3,750	20
発送作業費	470	470	0
郵送費	4,100	4,100	0
印刷費	2,100	1,900	200
支部関係費	2,340	2,300	40
協会会費割戻金	690	650	40
支部出張費	1,500	1,500	0
支部総会費	150	150	0
人件費	4,680	4,680	0
給与手当	4,550	4,550	0
福利厚生費	130	130	0
全国大会費	500	1,500	△ 1,000
新年懇親会費	1,550	1,250	300
校友ネットワーク構築費	260	240	20
消耗雑費	30	50	△ 20
一般社団法人移行費	6,735	0	6,735
印刷費	960	0	960
発送作業費	175	0	175
郵送費	5,600	0	5,600
<b>管理費</b>	13,385	14,095	△ 710
総会費	1,250	1,250	0
本部会議費	2,075	2,075	0
その他会議費	1,300	1,250	50
人件費	5,600	5,600	0
給与手当	5,000	5,000	0
福利厚生費	600	600	0
旅費交通費	30	50	△ 20
通信費	1,160	1,160	0
振替手数料	120	120	0
事務用品費	510	510	0
印刷・製本費	50	50	0
修繕費	50	50	0
賃借費	280	280	0
業務委託費	660	1,100	△ 440
慶弔費	150	150	0
公租公課	50	50	0
雑費	100	400	△ 300
<b>固定資産取得支出</b>	250	150	100
資産取得支出	250	150	100
<b>予備費</b>	3,000	3,000	0
当期支出合計	72,335	44,105	28,230
当期収支差額	△ 29,410	0	△ 29,410
次期繰越収支差額	8,782	15,878	△ 7,096

## 平成 24 年度支部総会開催予定表

2012.3.31 現在

支部 名称	開催日時	開催場所	支部 名称	開催日時	開催場所
湘南支部	4月21日(土) 16:00	藤沢産業センター コミュニティルーム2	千葉県支部	6月10日(日) 11:30	船別蒸みどり
山口県支部	5月12日(土) 15:30	宇部72 アジスノホテル	体育連合OB会	6月10日(日) 12:00	工学院大学新宿校舎
岩手県支部	5月19日(土) 15:00	未定	高知県支部	6月30日(土) 18:00	早川
横浜支部	5月20日(日) 11:30	新横浜プリンスホテル「羽衣」	宮城県支部	6月30日(土) 17:00	未定
三和シャッター支部	5月23日(水) 18:30	工学院大学新宿校舎ファカルティクラブ	東芝支部	7月 6日(金) 18:15	工学院大学新宿校舎 28F 第4会議室
西湘支部	5月26日(土) 11:00	伊勢原市「FORUM246」	相模支部	7月 7日(土) 15:00	プロミティあつぎ 8階会議室
長野県支部	5月26日(土) 17:00	ホテルブエナビスタ	島根県支部	7月 8日(日) 11:30	松江市内
関東工支部	6月 1日(金) 18:30	未定	佐賀県支部	8月25日(土) 11:00	グランデはぐくれ
鹿児島県支部	6月 1日(金) 18:30	パレスイン鹿児島	新潟県支部	10月20日(土) 13:20	豊香
埼玉県中央支部	6月 2日(土) 13:30	with you さいたま	東京支部	10月21日(日) 14:00	工学院大学新宿校舎 28階
西東京支部	6月 9日(土) 14:00	八王子クリエイトホール	大分県支部	11月10日(土) 18:00	別府市ホテル雄飛
熊本県支部	6月 9日(土) 16:00	ワシントンホテル	沖縄県支部	11月17日(土) 18:30	ザンブラザ海邦
埼玉県西支部	6月 9日(土) 16:30	川越東武ホテル	富山県支部	12月 5日(水) 18:00	高志会館

## 本部役員・支部長メールアドレス一覧

校友会本部役員、各支部長への連絡は下記の e-mail アドレスをご利用下さい。(校友会のサーバーに一定期間保管されます) 2012.3.31 現在

名 前	メールアドレス	名 前	メールアドレス
会長	kaicyo@kogakuin.or.jp	新潟県支部	niigata@kogakuin.or.jp
副会長	fukukaicyo@kogakuin.or.jp	富山県支部	toyama@kogakuin.or.jp
総務部長	somu-bucyo@kogakuin.or.jp	石川県支部	ishikawa@kogakuin.or.jp
総務部副部長 1	somu-fukubucyo1@kogakuin.or.jp	福井県支部	fukui@kogakuin.or.jp
総務部副部長 2	somu-fukubucyo2@kogakuin.or.jp	山梨県支部	yamanashi@kogakuin.or.jp
財務部長	zaimu-bucyo@kogakuin.or.jp	長野県支部	nagano@kogakuin.or.jp
財務部副部長	zaimu-fukubucyo@kogakuin.or.jp	岐阜県支部	gifu@kogakuin.or.jp
企画・広報部長	kikakukoho-bucyo@kogakuin.or.jp	静岡県支部	shizuoka@kogakuin.or.jp
企画・広報部副部長	kikakukoho-fukubucyo@kogakuin.or.jp	愛知県支部	aichi@kogakuin.or.jp
組織・事業部長	sosikijigyo-bucyo@kogakuin.or.jp	三重県支部	mie@kogakuin.or.jp
組織・事業部副部長	sosikijigyo-fukubucyo@kogakuin.or.jp	京滋支部	keiji@kogakuin.or.jp
学園連携部長	gakuenrenkei-bucyo@kogakuin.or.jp	大阪支部	osaka@kogakuin.or.jp
学園連携部副部長	gakuenrenkei-fukubucyo@kogakuin.or.jp	兵庫県支部	hyogo@kogakuin.or.jp
監 事	kanji@kogakuin.or.jp	鳥取県支部	tottori@kogakuin.or.jp
事務長	jimucyo@kogakuin.or.jp	島根県支部	shimane@kogakuin.or.jp
事務局	jimukyoku@kogakuin.or.jp	岡山県支部	okayama@kogakuin.or.jp
北海道支部	hokkaido@kogakuin.or.jp	広島県支部	hiroshima@kogakuin.or.jp
青森県支部	aomori@kogakuin.or.jp	山口県支部	yamaguchi@kogakuin.or.jp
岩手県支部	iwate@kogakuin.or.jp	徳島県支部	tokushima@kogakuin.or.jp
宮城県支部	miyagi@kogakuin.or.jp	香川県支部	kagawa@kogakuin.or.jp
秋田県支部	akita@kogakuin.or.jp	愛媛県支部	ehime@kogakuin.or.jp
山形県支部	yamagata@kogakuin.or.jp	高知県支部	kochi@kogakuin.or.jp
福島県支部	fukushima@kogakuin.or.jp	福岡県支部	fukuoka@kogakuin.or.jp
茨城県支部	ibaraki@kogakuin.or.jp	佐賀県支部	saga@kogakuin.or.jp
栃木県支部	tochigi@kogakuin.or.jp	長崎県支部	nagasaki@kogakuin.or.jp
群馬県支部	gunma@kogakuin.or.jp	大分県支部	oita@kogakuin.or.jp
埼玉県中央支部	saitama-chuo@kogakuin.or.jp	宮崎県支部	miyazaki@kogakuin.or.jp
埼玉県西支部	saitama-nishi@kogakuin.or.jp	鹿児島県支部	kagoshima@kogakuin.or.jp
千葉県支部	chiba@kogakuin.or.jp	沖縄県支部	okinawa@kogakuin.or.jp
東京支部	tokyo@kogakuin.or.jp	清水建設支部	shimz@kogakuin.or.jp
西東京支部	nishi-tokyo@kogakuin.or.jp	日本電気支部	nec@kogakuin.or.jp
川 崎支部	kawasaki@kogakuin.or.jp	東 芝支部	toshiba@kogakuin.or.jp
横 浜支部	yokohama@kogakuin.or.jp	関東工支部	kandenko@kogakuin.or.jp
湘 南支部	syonan@kogakuin.or.jp	三和シャッター支部	sanwa-sha@kogakuin.or.jp
相 模支部	sagami@kogakuin.or.jp	学 園支部	gakuen@kogakuin.or.jp
西 湘支部	seisyo@kogakuin.or.jp	体育会連合OB会支部	taiku-ob@kogakuin.or.jp

## 平成 23 年度貸借対照表

平成 24 年 3 月 31 日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1. 流動資産	8,506,975	1. 流動負債	293,185
2. 固定資産	159,194,892	2. 固定負債	1,952,600
		3. 正味財産	165,456,082
		(うち基本金)	(20,000,000)
合 計	167,701,867	合 計	167,701,867

## 平成 23 年度財産目録

平成 24 年 3 月 31 日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産	8,506,975	負債	
1. 現金預貯金	8,506,975	1. 一般預り金	293,185
		2. 退職給与引当金	1,952,600
固定資産	159,194,892	正味財産	165,456,082
1. 基本財産引当預金	20,000,000	(うち基本金)	(20,000,000)
2. 什器備品	692,092		
3. 電話加入権	102,800		
4. 長期預金	138,400,000		
合 計	167,701,867	合 計	167,701,867



## 一般社団法人移行に関するお知らせ！



当法人は、政府の推進する公益法人改革に沿って一般社団法人への移行を進めておりますが、今総会終了後、新定款に基づいて一般社団法人工学院大学校友会としての登記に向けての活動が開始されます。一般社団法人への移行後は、今までの社団法人とは異なり、新しい定款に基づく運営となります。以下、新法人移行後、運営面で変わる点について要点をまとめましたので会員の皆様のご理解ご協力をお願いします。

### 【運営面で変わる点】

- ① 新定款では代議員制度を導入します。総会（社員総会）はその代議員によって構成されます。
- ② 代議員は会員による選挙で選出することが法律で定められています。
- ③ 代議員選出規則を定め、この規則に沿って秋頃までには選挙を行います。
- ④ 選挙の方法は同窓会単位に概ね会員 1000 人に 1 人の割合で代議員を選出します。
- ⑤ 選挙権、被選挙権は会員に均しく保持されます。
- ⑥ 複数の同窓会（高校と大学等）に所属されている会員はどの同窓会を選挙区とするかを一つ選択し自己申告して頂きます。申告が無い場合は最終学歴の同窓会を選挙区と致します。
- ⑦ 代議員の立候補は、自薦、他薦何れも可能で、届出用紙で選挙管理委員会に届け出る。
- ⑧ 選挙の公示は選挙管理委員会より全会員に郵送し、同時にHPにも掲載されます。
- ⑨ 立候補締め切り後、立候補者リストを同窓会ごとに選挙管理委員会よりHPで公示します。
- ⑩ 投票は所定の投票用紙で郵送、持参、FAX、E-mail、の何れかで行って頂きます。
- ⑪ 投票終了後、結果を選挙管理委員会よりHPで公告します。
- ⑫ 代議員（社員）選出後直ちに臨時社員総会を開催し、理事、監事、会長、副会長の選出を行います。
- ⑬ 同時に一般社団法人認可申請書に記載し、内閣府に対して申請を行います。
- ⑭ 認可までおおよそ4～5ヶ月掛かります。
- ⑮ 認可後速やかに登記を行います。登記完了は平成24年度中を目標に取り組みます。
- ⑯ 登記完了後、速やかに臨時社員総会を開催し、新理事、監事の選出を行い、理事の互選により正、副会長の選出を行います。

### 【お願い！】

◆高校と大学等の複数の同窓会に所属されている会員はどの同窓会を選挙区とするか自己申告により、決定していただく必要があります。同封の「定款・規則類」の末尾にある申告書により、7月10日までに事務局宛申告をお願いいたします。申告が無い場合は、最終学歴の同窓会を選挙区と致しますのでこの点ご了承ください。

# 住宅用シャッターゲート サンゲート

●豊富なバリエーション  
住宅デザインに合わせてコーディネート  
できます。

●リモコンで開閉ラクラク  
車内からボタンを押すだけで、簡単に  
シャッターを開閉できます。

●操作性、安全性にも配慮  
シャッターの開閉スピードは従来の2倍。  
閉作中に障害物があるとシャッターが反転・停止します。



## 三和シャッター工業株式会社

〒175-0081 東京都板橋区新河岸2-3-5

<http://www.sanwa-ss.co.jp/>

株式会社リビング百十番ドットコム (三和グループ会社)

お問合せは:03-5348-7533 カスタマーセンター:03-3346-3011

顧問 渡辺 静雄 (電気工学科:昭和39年卒 空手道部OB)

知的財産ビジネス支援の専門職集団

## 太陽国際特許事務所

所長・弁理士・博士 (工学) 中島 淳 (S44 機械卒・H14 大学院電気電子卒)

機械建築担当弁理士	福田浩志 (副所長)	清武史郎*	堀江千鶴*	坂手英博*
	針間一成	高橋尚子*	河野元浩*	内田英男
	中村 明	御橋優子*	上野敏範*	澤田修孝
	井上義美	片倉正博	長谷川洋	小林 功
	本合孝治			
電気電子担当弁理士	加藤和詳 (副所長)	百瀬尚幸	美濃好美*	佐久間顕治*
	小早川千佳子	大古奈奈*	宮本治彦	大松崎明子
	渡瀬美江子	岡崎広志		
化学材料担当弁理士	西元勝一	都野真哉*	上條由紀子*	下田世津子*
	小林美貴*	西山 崇*	早瀬貴介	長野みか*
	前嶋恒夫*			
バイオ医薬担当弁理士	山中裕子*	山極美穂	膝舘祥治	渡邊裕子*
	伊豫田順子	原 圭乃		
商標法律担当弁理士	関島昌子*	高橋史保*	遠島丈大	
米国特許弁理士	シエルダン・モス	チャド・ヘリング		
中国弁理士	董 昭			
韓国弁理士	金 峻河			

\*特定侵害訴訟代理業務付記

東京本部: 東京都新宿区新宿4丁目3番17号 〒160-0022

電話 (03) 3357-5171 (代表) ファクシミリ (03) 3357-5180 (代表)

<http://www.taiyo-nk.co.jp> 相談・連絡用 E-mail: info@taiyo-nk.co.jp

USオフィス: 米国バージニア州

## 工学院大学校友会ホームページのご案内

<http://www.kogakuin.or.jp/>

工学院大学校友会ではホームページを運営し、行事日程や活動報告などタイムリーな情報をお伝えしており、総会や新春の集いなどの写真なども閲覧することができます。(会員専用ページにて。要パスワード)

また、支部活動、同窓会活動、学園トピックスなどの紹介も行っています。

会員の皆様の住所変更や各種問合せもメールで受付可能となっておりますので、一度覗いてみませんか？

STUDENT CENTER at Hachioji Campus since 2007

工学院大学校友会  
http://www.kogakuin.or.jp

工学院大学校友会  
卒業生ハックアップセンター

工学院大学校友会のWEBサイトへようこそ！

本WEBサイトは、卒業生のみならず母校との交流の場となることを目的に構築されています。校友会活動について、随時更新していきますのでご利用ください。

行事 会員挨拶 各同窓会へのリンク

全国大会・総会・新年会・ホームカミングデー等の校友会活動の様子や今後の開催をお知らせします

多くの校友がイベントに参加  
工学院大学校友会  
会長 長崎孝雄

私達の母校は1887年、東京の築地工科大学として設立され、その後1923年の大震災を機に現在の地に移転し

各同窓会へのリンク  
地域系同窓会  
高化会  
電気電子情報同窓会  
建築系学科同窓会  
専門学校同窓会

お知らせ

2012/03/08 校友会報 133号 表紙デザインコンペ受賞者発表

2012/02/28 東日本大震災支援ご協力お祝い

2012/02/24 「あなたの思い出ももり輝」がNHKニュースで放映されました

2011/12/27 第11回ホームカミングデー参加のお礼とご報告 (再掲載)

2011/11/22 校友会新春の集い2012 開催案内

2011/11/04 学園創立125周年記念委員募集 校友会員懇話会と連携

2011/10/14 ホームカミングデーの案内 (トップページ)

2011/09/05 会員ページ2 定款施行規則

2011/09/05 お知らせ 行事予定 全国支部長会、新年会、懇話会日程

2011/08/03 校友会報 133号 表紙デザインコンペ

2011/07/26 全国高校野球選手権西東京大会 (最終版)

2011/07/23 心斎橋駅前校舎建築工事完了、工事途中は旧校舎前へお越しください

創立125周年  
記念  
募金の御願い

工学院大学 校友会事務局  
〒163-8677 東京都杉並区高円寺南1-24-2  
TEL 03-3342-2064  
FAX 03-3342-2035

各08会・同好会へのリンク



10Th Anniversary

病院用 PSA 酸素濃縮器  
院内酸素配管システム設計施工



家庭用小型酸素濃縮器  
製造販売



3L/min

5L/min

北京奥吉科技发展有限公司

【本社工場】

100076 北京市大興区西紅門鎮福偉路 12 号

Tel : 010-6024-6851 Fax : 010-6024-6850

BEIJING AOJI Co.,Ltd.

No.12 Fuwei Road,XihongmenZhen Daxing District

Beijing 100076 China

Tel:010-6024-6851 Fax:010-6024-6850

<http://www.aoji.net> e-mail:aoji@aoji.net

代表取締役社長  
生産機械工学科  
52年度卒 馬場 修

電気設備 設計施工



太陽光発電システム・オール電化設備  
設計施工

電力制御機器装置 設計施工

## 牧野電設工業株式会社

代表取締役 牧野 光洋  
(1979年 専門学校電気科卒)

■本 社

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 3-25-5

TEL 03-3313-2511(代表)

FAX 03-3313-2509

■甲府営業所

〒409-3864 山梨県中巨摩郡昭和町押越 1519-3

TEL 055-268-6016

FAX 055-275-4015

■ショールーム

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-45-17

コーヨービル1F

TEL 03-6454-6601

FAX 03-6454-6602

■U R L <http://www.makino-dk.co.jp/>

# 企画・広報部からのお知らせ

## 校友会のホームページ

校友会に関する各種情報は、次のホームページをご覧ください。 <http://www.kogakuin.or.jp/>  
会員ページはパスワードが必要です。(パスワード：平成24年6月～25年5月有効)  
工学院大学校友会事務局 E-Mail: jimukyoku@kogakuin.or.jp

## 校友会報 (Vol.134) の広告募集

「校友会報」の広告を下記の要領で募集します。皆様のご協力をお願い致します。

1. 募集対象：各企業、組織、団体の広告など。
2. 広告代：カラー/表紙裏1頁16万円、他12万円、1/2頁6万円/黒一色1頁10万円、1/2頁5万円
3. 募集切：平成24年12月17日(月曜日)
4. 掲載：校友会報2013 Vol.134に掲載
5. 原稿送付先：校友会報事務局宛に郵送、電子メール等。E-Mail: jimukyoku@kogakuin.or.jp
6. 原稿形態：Word文書等の電子データを電子メール、または郵送。
7. 問い合わせ先：校友会事務局 TEL 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035、E-Mail: jimukyoku@kogakuin.or.jp
8. 発行予定：平成24年4月20日 9. 発行部数：約67,000部 10. 配布先：全国校友会員、学園関係者など

## 表紙デザインの説明

表紙デザイン/工学部I部応用化学科 五十嵐 淳 「クラフトマンウォール」

今年、我校の地下玄関が改修され明るく生まれ変わりました。特殊なレンガを積み重ねた曲面壁は「クラフトマンウォール」と呼ばれ、新しい「大学の顔」となりました。

この新しい「大学の顔」を校友会の先輩方に見ていただきたく応募しました。

オレンジ色のレンガの壁の暖かみと重厚感を出すのに苦労しましたが、新しいシンボルマークとレンガの壁を一枚に収めることができました。

この写真をより多くの皆様にご覧いただけたら幸いです。



## 編集後記

工学院大学は本年秋、いよいよ創立125周年を迎え、現在各種の記念事業が進行中です。一方、校友会は「一般社団法人」への移行準備が整いつつありますが、今回は紙面の都合により、次号にて詳細にご紹介の予定です。

この度の大震災では、工学院大学はいち早くこの「125周年記念事業」の一環として多くの寄付金を集め、被災地支援に動きました。特に石巻で話題となった「復興住宅の建設」をはじめとし、学生達の各種ボランティア活動、仮設住宅への家具納入、企画展示会、報告会・講演会等、多面的にわたって活発な活動を行っています。これらは今年2月、学校法人により「東日本大震災復興支援、300日の軌跡」として冊子にまとめられており、インターネットでもご覧になれます。さて、本誌面に目を向けると、先ず学園 Topics では、様々な学内の活動がいきいきと描写されています。125周年特別企画では3名の方々により校祖 渡邊洪基先生を立体的に表現しています。卒業生の活躍では、話題になった小惑星探査機「はやぶさ」(石田昭徳)の偉業は世界を驚かせ、テレビ「カンブリア宮殿」でも紹介されたダイシン百貨店(西山敷)の半径500m圏内シェア100%主義は、注目を集めています。その他、盛りだくさんな記事をお楽しみ下さい。今回の発行部数は67000部になり、全国の卒業生や関係者に届けられます。企画・広報部の理事をはじめ多くの方々にご協力を戴きました。ご執筆戴いた卒業生、在校生、教職員をはじめ、広告出稿の各企業や、数多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

校友会や誌面へのご意見は、下記のメールアドレスをお願い致します。

敬具

工学院大学校友会企画・広報部

Email: kikakukoho-bucyo@kogakuin.or.jp

校友会副会長 / 企画・広報部長

谷口宗彦(建築)

副部長 佐久間惣喜(専門)

理事 田村久義(機械)、吉川重克(化学)、名取勝敏(電気)、大場光博(建築)、鈴木敏彦(建築)、三宅捷夫(高校)、木本勝正(高校)、佐藤敏勝(専門)

## Tokyo Urban Tech 工学院大学 校友会報 Vol.133

●発行日 2012年4月20日 ●発行/工学院大学 校友会

●住所 163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

電話/03-3342-2064、03-3340-1649 Fax/03-3342-2035

E-Mail: jimukyoku@kogakuin.or.jp <http://www.kogakuin.or.jp>

●編集 工学院大学校友会 企画・広報部 ●本文デザイン・印刷/株式会社 春恒社

# 住宅ローン、まさか金利だけで 選ぼうとしていませんか？

意外と見落としがちなのは、

完済するまでの総支払い金額。

金利だけでは見えませんが、大きな差があります。

繰上返済したい時、

手数料が掛かる場合があることをご存知ですか？

すぐに決めてしまう前に、

「総支払額」を確認してみませんか？

☑️ 簡単シミュレーションのご案内  
当社HPにて、【フラット35】お借入のシミュレーションが簡単にできます。



優良住宅ローン 検索

ご自身でも、施主様用でも住宅ローンで迷ったら、お気軽にまず当社にご相談下さい。



総返済額で

## 最安値No.1

を目指しています。

多くの工学院大学OBの皆様にお申込いただきました！誠にありがとうございます！

住宅取得は一生で一番大きい買物です。住宅ローンは何処で借りても住宅の品質には変わりありません。住宅ローンは、主に金利・手数料・保証料等で構成されています。

 株式会社 優良住宅ローン  
関東財務局長(2)第01443号 【住宅金融支援機構提携金融機関】  
<http://www.yuryoloan.jp>

営業時間  
平日 9:00-15:00

TEL:03-6457-7472

代表取締役社長 田野澄幸裕  
(建築学科1969年卒業)

□ 本社:東京都新宿区新宿1-3-12 杏丁目参番館 5階 / TEL:03-6457-7451

■ 神戸支店:兵庫県神戸市中央区京町79番地 日本ビルヂング9階 / TEL:078-381-5630 (代)

■ 仙台支店:宮城県仙台市青葉区大町1-2-1 ライオンビル7階 / TEL:022-352-6071

契約には「北海道から沖縄まで」出張いたします。

【資本金 5億9千万円】



TOKYO URBAN TECH

工学院大学

工学院大学校友会

<http://www.kogakuin.or.jp>